時津町埋蔵文化財調査報告書第３集

久留里遺跡

２０１２

長崎県時津町教育委員会

時津町埋蔵文化財調査報告書第３集

久留里遺跡

２０１２

長崎県時津町教育委員会

発刊にあたって

長崎県時津町は、長崎県南部に位置し、東側を長与町に、北西から南側を長崎市と、北側は長崎の空の玄関口としての長崎空港が浮かぶ大村湾に面しています。「生活都市　とぎつ　～誰もが住みたくなる町へ～」を将来像とし、まちづくりを進めています。

江戸時代には大村藩に属し、長崎から日本全国に西洋文化を伝えた時津街道が通り、その宿場町として栄えていました。現在も、往時の面影を留める茶屋（本陣：幕府の役人や諸大名の休憩所）が残されています。

今回、発掘調査（平成23年10月３日～11月30日）を行った久留里遺跡は、宅地開発を行う計画があがり、遺跡保存のための範囲確認調査（平成23年５月16日～６月３日）を実施しました。その結果、縄文・弥生時代の良好な遺物包含層が確認されたため、恒久的な道路建設を行う部分について、保存のための調査を行ったものです。

本調査の成果は、貴重な文化遺産であり、本町内に埋蔵文化財があるということは、我々町民の誇りでもあります。この貴重な文化財については、今後生きた教材として活用してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、調査にあたって、大変ご多用のなか、ご協力いただきました長崎県学芸文化課、長崎県埋蔵文化財センター及び関係者の方々に対しまして、心より深く感謝申し上げ、発刊のことばといたします。

平成24年３月31日

時津町教育委員会
教育長　神　近　孝　司

例　　言

1　本書は、時津町久留里郷における住宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

調査は、時津町教育委員会が主体となり発掘調査の依頼を受け、長崎県埋蔵文化財センターが調査を担当し、平成23年度に実施した。

2　報告する調査は下記のとおりである。

(1)　久留里遺跡：長崎県西彼杵郡時津町久留里郷字岩本

(2)　久留里遺跡の範囲確認調査及び本調査共に、長崎県埋蔵文化財センターで担当した。

(3)　久留里遺跡の発掘調査期間

①範囲確認調査：期　　間　平成23年５月16日～平成23年６月３日

調査面積　60㎡

②本　調　査：期　　間　平成23年10月３日～平成23年11月30日

調査面積　310㎡

(4)　久留里遺跡の調査担当者

長崎県埋蔵文化財センター

①範囲確認調査　　調査課文化財保護主事　川畑　敏則

文化財調査員　宮武　直人

文化財調査員　今西　亮太

東アジア考古学研究室文化財保護主事　古澤　義久

②本調査　　調査課係長　町田　利幸

文化財調査員　中村雄一郎

時津町教育委員会社会教育課　社会教育係長　尾崎　智秋

社会教育係　尾道　輝寿

3　本書の執筆は、範囲確認調査を宮武、本調査を町田、中村で分担し、執筆者は本分目次に記した。

4　本書の遺物実測については、県埋蔵文化財センター文化財調査員　川淵雅行に協力を得た。

5　本書の整理作業については、福山章、平田美保子、大石信子、豊永直子、山口美代子で行った。

6　本書の総編集を町田が行った。

7　本書関係の出土遺物、図面、写真類は、時津町から譲与申請の提出がなされる期間、長崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本 文 目 次

Ⅰ　本調査に至る経緯
1．調査の経緯……1（町田）
2．平成23年度範囲確認調査打合せ……1（〃）
3．平成23年度範囲確認調査概要……1（〃）
4．平成23年度本調査概要……1（〃）
Ⅱ　歴史的環境
1．遺跡周辺の環境と町内の遺跡概要……1（中村）
Ⅲ　範囲確認調査
1．平成23年度範囲確認調査……5（宮武）
Ⅳ　本　調　査
1．調査の概要……7（町田）
2．土層……8（〃）
3．遺物分布状況……12（〃）
4．遺構……18（〃）
5．遺物……18（〃）
6．まとめ……37（〃）

挿 図 目 次

第1図　時津町内の遺跡……4
第2図　前島古墳群第6古墳出土無蓋高坏……4
第3図　前島古墳群第7古墳群出土鏃・鋤先鉄製品……4
第4図　試掘坑配置……6
第5図　本調査区配置……7
第6図　1区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）……8
第7図　1区（遺物水平分布・遺物垂直分布）……9
第8図　2区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）……10
第9図　3区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）……11
第10図　4区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）……12
第11図　4区（遺物水平分布）……13
第12図　4区（遺物垂直分布）……14
第13図　5区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）……15
第14図　5区（遺物水平分布・遺物垂直分布）……16
第15図　5区（遺物水平分布・遺物垂直分布）……17
第16図　集石（貯蔵穴）……18
第17図　1区出土土器……19
第18図　2区出土土器……21

第19図　3区出土土器……23
第20図　4区出土土器①……25
第21図　4区出土土器②……26
第22図　5区出土土器……27
第23図　1区・2区ベルト層出土土器……28
第24図　2区・3区ベルト層出土土器……28
第25図　3区・4区ベルト層出土土器……28
第26図　4区・5区ベルト層出土土器……29
第27図　その他の土器……30
第28図　1区出土の石器……31
第29図　2区出土の石器……31
第30図　3区出土の石器……32
第31図　4区出土の石器……33
第32図　1区～5区層出土石器①……34
第33図　1区～5区層出土石器②……35

図版目次

図版1　調査①……43
図版2　調査②……44
図版3　調査③……45
図版4　1区出土土器……46
図版5　2区出土土器……47
図版6　3区出土土器……48
図版7　4区出土土器……49
図版8　5区出土土器……50
図版9　3区～5区ベルト層出土土器……51
図版10　4区出土土器、1区・2区ベルト層出土土器……52
図版11　2区・3区ベルト層出土土器、その他の土器……53
図版12　1区～4区出土石器……54
図版13　1区～5区層出土石器①……55
図版14　1区～5区層出土石器②……56

表目次

表1　時津町遺跡一覧……3
表2　土器出土一覧……38
表3　石器出土一覧……39

Ⅰ　本調査に至る経緯

1．調査の経緯

久留里遺跡については過去に、平成13年度に慎重工事での対応と平成16年度宅地開発に伴う範囲確認調査を実施している。

2．平成23年度範囲確認調査打合せ

①期　日：平成23年４月18日

②出席者：長崎県埋蔵文化財センター

調　査　課　課　長　　川道　寛

文化財調査員　宮武　直人

時津町教育委員会

社会教育課　課　長　　桑原　智信

社会教育係　尾道　輝寿

③範囲確認調査の実施にあたり、土地所有権の確認と発掘承諾書の作成

④樹木、作物の撤去

⑤土地境界の確定確認と土地測量図の提供依頼

⑥調査用プレハブハウスの設置場所

⑦調査日程の設定

⑧労務管理・監督と調査担当の分担

3．平成23年度範囲確認調査概要

範囲確認を平成23年５月16日～平成23年６月３日に60㎡の調査を実施した。調査の結果、縄文時代中期、後期を主体とする遺物包含層を確認し、開発箇所が遺跡に影響を及ぼす場合は、埋蔵文化財の調査を実施する必要があるとした。

4．平成23年度本調査概要

本調査については、範囲確認調査を踏まえて、宅地開発によって地下に影響が及ばないよう盛土による土地造成を行うとした。しかし、進入道路については埋蔵文化財への影響及び今後、永久的に調査が出来なくなるために記録保存の措置を行うこととした。

Ⅱ　歴史的環境

1．遺跡周辺の環境と町内の遺跡概要（第１図～第３図・第１表）

久留里遺跡は西彼杵郡時津町久留里郷字岩本にある。

時津町は西彼杵半島の付け根に所在し、南に長崎市と隣接している。西南部に標高200～300mの連峰をそなえ、そこから大村湾へと注ぐ河川近くの平野部に集落が形成されてきた。平野部が狭小であったため、江戸時代にはすでに沿岸の埋め立てが行われていたと伝えられている。近年においても大村湾沿岸の埋め立ては進められ、工場用地・宅地造成が現在も行われている。今回の久留里遺跡の調査も、沿岸部の宅地造成に伴うものである。

長崎県教育委員会が実地した昭和56年の分布調査により、時津町には久留里遺跡を含めて20箇所の遺跡が確認された。そのほとんどは海岸線に沿うように分布しており、当時の内陸平野の少なさが窺われる。時津町の遺跡では前島古墳群を除き、詳細な調査が行われていないため簡単にはなるが町内の遺跡について、以下まとめる。

縄文時代の遺跡としては時津北小学校遺跡から校舎建築の基礎工事中に、校地内から曽畑式土器(縄文前期後半）が発見されているが残念ながら周辺は旧景を残しておらず、この遺跡の全景を窺い知ることは難しい。木場遺跡Ａ地点・Ｂ地点からはスクレイパー・石鏃・黒曜石剥片が出土し、木場崎遺跡Ａ地点・似田の多尾遺跡からも石鏃・黒曜石剥片が出土している。他、縄文時代の遺跡としては前島遺跡・釜ノ島遺跡・前開遺跡・碇遺跡があるが、分布調査の時点では黒曜石剥片の散布が認められる程度に留まっている。

弥生時代の資料はわずかである。同上の時津北小学校の工事の際に大型蛤刃石斧・弥生土器が出土しているほか、木場崎遺跡Ａ地点からも弥生土器が出土している。Ａ地点に隣接する木場崎遺跡Ｂ地点からは箱式石棺が出土していたが消滅している。石棺周辺から磨製石斧も出土していたとの証言があるが詳細は不明である。

前島古墳群以外の古墳時代の遺跡としては登呂福遺跡あり、昭和48年度の分布調査で登呂福遺跡からは須恵器口縁部破片が発見されている。また登呂福遺跡に近い登呂福積石塚では自然石が露見した丘陵の竹林内に、高さ50cm未満の礫が積石塚に類似するように積まれているものが２基発見された。ただし、周辺より遺物が発見されておらず正確な時期は不明である。なお丘陵頂部には八幡様を祭った祠がある。

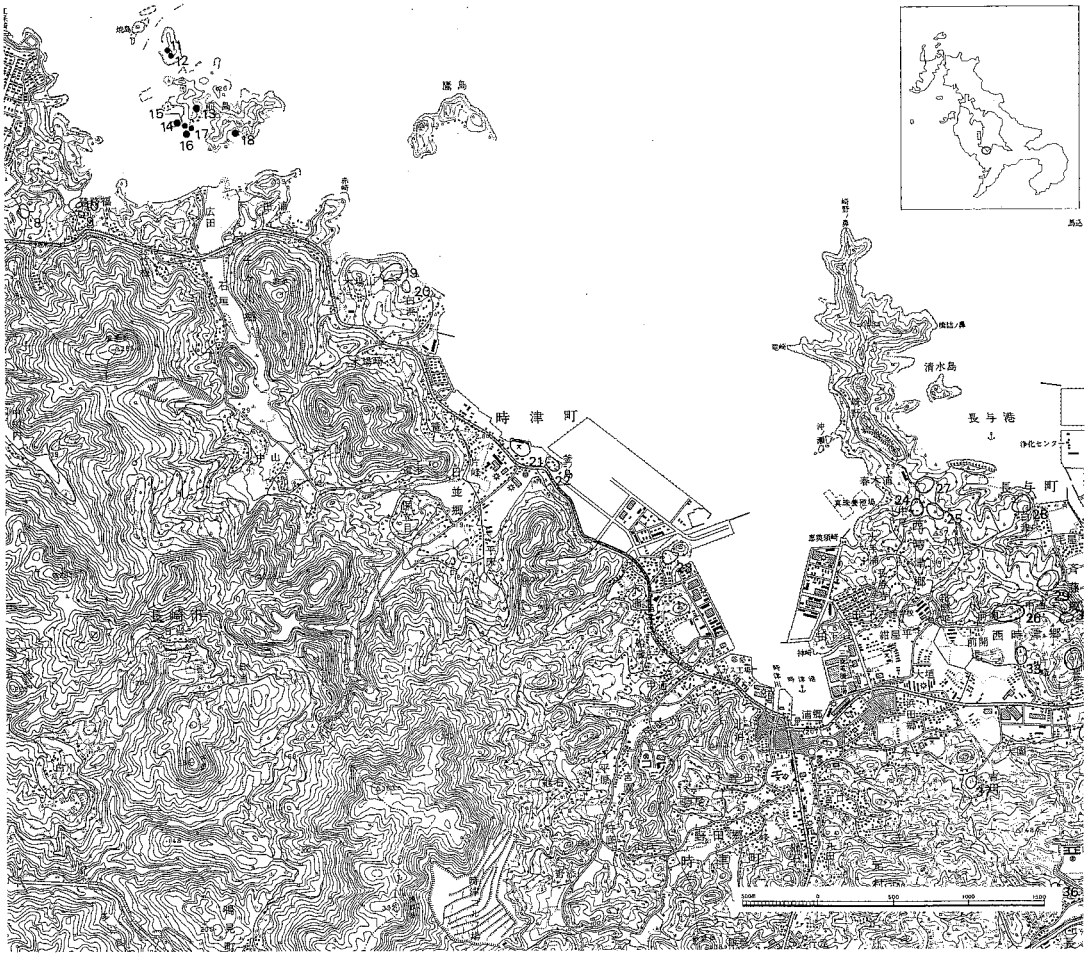
前島には時津町の代表的な遺跡である前島古墳群がある。平成２年度と平成５年度の２回に渡って、古墳の整備・活用のため時津町教育委員会が主体となり調査が行われたが、１号墳・２号墳は昭和30年代に土地開墾のために掘り起こされ破壊されている。１号墳は横穴式石室で、直形9.5cmの仿製鏡・直刀・石斧・玉類が出土し周辺には黒曜石剥片が散布していたと伝わっている。しかし時津北小学校で保管された直刀と石斧以外の遺物は詳細が不明になっており、現在は石室の石材だけが一部残存する。２号墳は複室横穴式石室で、内部から刀・玉類・土器が出土したと伝わるが、遺物の詳細は不明で、墳丘・石室の原型を残していない。

３・４号墳は横穴式石室である。３号墳は直径約８ｍの円墳で墳丘の高さは約4.2mで、良好な状態で残っている。石室は両袖式の横穴式石室である。側石と奥壁腰石には大きめの石を使用しその上段より積み上げているが、奥壁から前面・左右側壁から内側への送り出しの傾斜が急になっている。副葬品は発見されず、羨道を確認する際の掘り下げでも遺物は確認されていない。４号墳は天井石が割れ、側壁が部分的に崩れ落ちているため、玄室・石室の詳細な記録調査はされていない。また遺物も確認されていない。

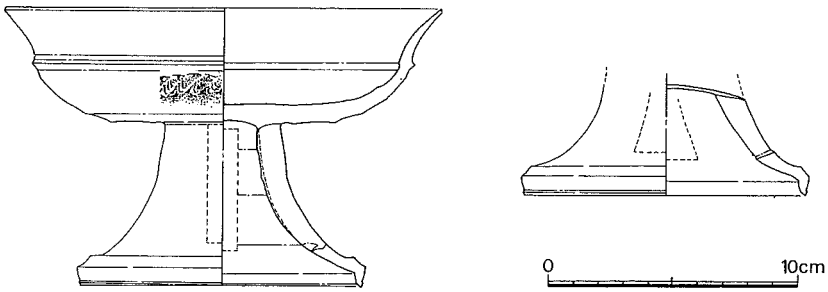
５・６・７号墳はいずれも高さが約70㎝程度の盛り土で封土された墳丘で、多少流土が見られるものの円墳としての形を残している。５号墳は現状保存とされている。６号墳は主体が箱式石棺であることが確認され副葬品は発見されなかったが墳丘裾部からは無蓋高杯が出土している。７号墳は石棺系の横口式石室で、棺内から鏃と鋤先状鉄製品が出土した。無蓋高杯・鏃ともに初期須恵器にあたり、６・７号墳は県内古墳の中でも最も古いものに属すると考えられる。また周辺に散布していた古墳の棺材と考えられていた板石は箱式石棺の蓋石であることが明らかになり、１号から５号までの箱式石棺が確認されている。石棺周辺からは弥生中期～後期の土器が出土しており、弥生中期頃からすでに墓域として利用されていたと考えられる。

第１表　時津町遺跡一覧（図中 No は長崎県遺跡地図による）

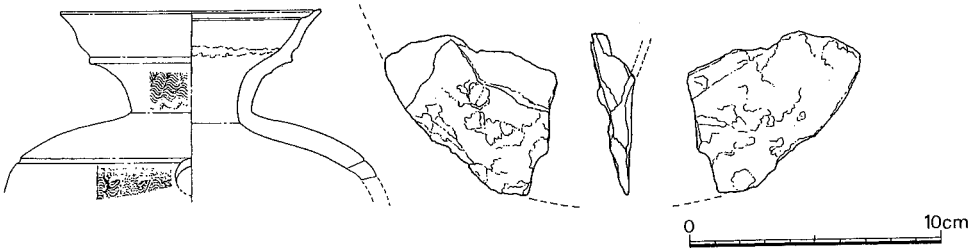
地図 No	名　　称	所　在　地	種　別	立地	時代
No. 8	似田の多尾遺跡	時津町登呂福字似田の多尾	遺物包含地	丘陵	縄文
No. 9	登呂福遺跡	時津町子々川郷登呂福	遺物包含地	丘陵	古墳
No. 10	登呂福積石塚	時津町子々川郷登呂福	積石塚	丘陵	古墳
No. 11	前島古墳群３号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 12	前島古墳群４号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 13	前島古墳群２号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 14	前島遺跡	時津町子々川前島	遺物包含地	岬突端	縄文
No. 15	前島古墳群６号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 16	前島古墳群７号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 17	前島古墳群５号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 18	前島古墳群１号墳	時津町子々川前島	古墳	海岸	古墳
No. 19	木場崎遺跡Ａ地点	時津町日並郷木場崎字高尾	遺物包含地	低丘陵	縄・弥
No. 20	木場崎遺跡Ｂ地点	時津町日並郷木場崎字高尾	墳墓	丘陵	弥生
No. 21	時津北小学校遺跡	時津町日並郷中曽根	遺物包含地	平地	弥生
No. 22	釜ノ島遺跡	時津町日並郷釜ノ島	遺物包含地	平地	縄文
No. 23	久留里遺跡	時津町久留里郷岩本	遺物包含地	沖積地	縄～中
No. 24	木場遺跡Ａ地点	時津町西時津郷	遺物包含地	丘陵	縄文
No. 25	木場遺跡Ｂ地点	時津町西時津郷	遺物包含地	丘陵	縄文
No. 26	前開遺跡	時津町西時津前開	遺物包含地	丘陵	縄文
No. 32	碇遺跡	時津町西時津郷福島	遺物包含地	平地	縄文



第１図　時津町内の遺跡



第２図　前島古墳群第６古墳出土無蓋高坏



第３図　前島古墳群第７古墳群出土磁・鋤先鉄製品

Ⅲ　範囲確認調査

1．平成23年度範囲確認調査（第４図）

久留里遺跡は戦前から遺物の散布地として知られていたが、遺跡の時期、内容については長らく不明であった。そのため昭和56年に分布調査がおこなわれ、以来縄文時代、弥生時代、中世を含む複合遺跡として周知されている（長崎県教育委員会編1994）。平成16年には、宗教施設建設に関連して遺跡の北西部において県教育員会による範囲確認調査が実施されており（山下2006）、曽畑式を中心とする縄文土器や石器が出土している。

平成22年に遺跡の範囲内において宅地造成が計画された。本来は、時津町教育委員会によって計画地内の範囲確認調査を実施する必要があるが、同教育委員会は文化財の専門職員が配置されていないのが現状である。そのため、平成23年に時津町教育委員会から依頼があり、長崎県埋蔵文化財センターが調査を担当した。

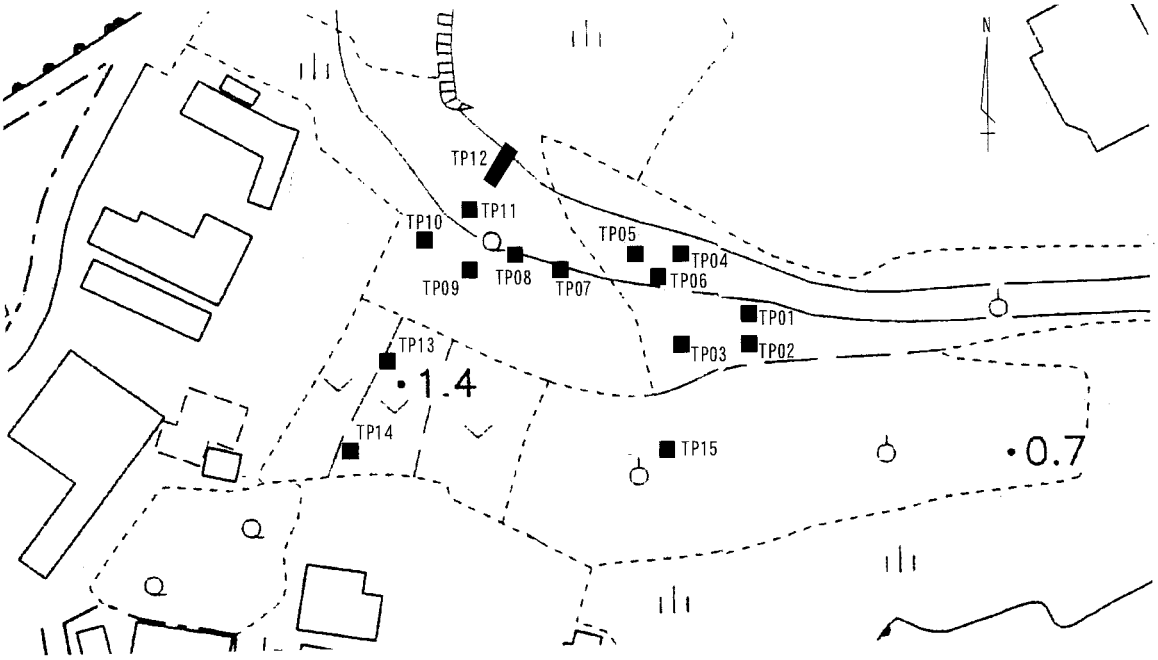
調査は平面直角座標系に則り、２ｍ×２ｍの試掘坑を任意に設定しておこなわれた。当初は、計画地面積から逆算して34箇所合計136㎡の試掘坑を設定する予定であった。ところが、調査地の一部が営農中の農地であることや、コンクリート構造物が残存している箇所、沼地化している箇所があったため、最終的に15箇所のみを調査した。

遺跡の北部は丘陵の裾にあたり、北から南にかけて緩傾斜を成す。調査区東側にはTP01、02、03を設定した。TP02においては、地表面下－0.6㎝の黄褐色砂質土から阿高式系の縄文中期を主体とした土器片や黒曜石、安山岩製の剥片が約50点出土した。TP02以東は造成計画の範囲外であるため調査対象から外しているが、TP02からの少なからざる遺物出土はTP02以東への遺跡の広がりを示唆するものである。

TP02以西の遺物包含層の広がりを調べるため、TP04、05、06を設定した。TP04、05では、各々表土から1.0ｍまで掘り下げたものの、遺物出土は僅少である。比較的標高の低いTP06においては、地表面から1.0ｍ下で縄文土器を含む黄褐色砂質土を確認した。同層には阿高式系の縄文土器片や、黒曜石、安山岩製の剥片が含まれており、残存状況も良い。なお、TP05では礫混じり暗褐色粘質土から掘り込まれたピットを１基確認している。遺構からの遺物出土はなく、時期は不明である。

丘陵の西側にはTP07～12を設定した。土層の堆積状況は基本的に一様で、表土下に暗褐色砂質土を挟み、東側の調査区で見られた黄褐色砂質土、その下に灰色と褐色（鉄分沈着層）土が帯状に交互に堆積する砂質土、灰黄褐色砂混じりの礫層、黒色砂層が続く。その内遺物包含層は、黄褐色砂質土とその下部の灰色と褐色の砂質土であり、TP08、09においては黒色砂層中から少量の縄文土器片が認められた。特徴的な遺物としては、TP07において黄褐色砂質土の下位から縄文晩期土器の底部が出土しており、TP08においては黒色砂層から黒褐色の縄文土器片（前期か）、TP09では磨消し縄文を有する縄文時代後期の土器片が出土している。

TP09の北に設定したTP11の土層は南側の試掘坑とほぼ対応するが、遺物を包含する砂質土以下に１ｍ程度の礫層が厚く堆積している。その下は堅い岩盤層で南側の各試掘坑で見られた黒色砂層の堆積は認められない。遺物は黄褐色砂質土、黄灰色砂層に多く含まれており、阿高式系の縄文中期の土



第４図　試掘坑配置（Ｓ＝１/1000）

器や黒曜石、安山岩、頁岩製の石器、剥片等が約200点出土している。

丘陵部の土層堆積を調べるために設定したTP12では、試掘坑の南側を除いて遺物包含層の堆積は認められず、厚さ0.3～0.5mの表土下はすべて岩盤層であった。調査区西側の成果とあわせて考えると、丘陵の裾にそって遺物包含層が堆積している様が理解できる。遺跡西側に設定したTP13、TP14においては地表面－0.2mに弥生土器を含む褐色砂質土が確認された。TP13からは中期末から後期初頭の高坏の坏部も出土している。遺跡西側の土層は北側とは堆積状況が異なり、表土も含めて全てが砂質土、砂層で構成される。表土から１ｍまで掘り下げたが湧水のため、それ以下の遺物包含層の存否は確認できていない。調査区中央の平地部に設定したTP15からは、地表面下－0.4mの褐灰色砂層から時期不詳の土器片１点、黒曜石製の剥片が１点出土したのみで０、０北側の試掘坑で見られたような縄文土器の包含層は確認できなかった。ただ、西側の試掘坑にあった黒色砂層が地表面下－0.6m以下に堆積しているため、平地部においては遺物包含層の大部分が削平されたものと考えられる。今回の範囲確認調査の結果、遺跡の北にある丘陵の裾を中心に縄文時代の遺物包含層が存在することが確認された。平成16年に遺跡の北西部でおこなわれた調査（山下2006）では曽畑式土器が多く見られたが、今回の調査ではむしろ中期の阿高式系土器が支配的であった。他方、丘陵の南側に広がる平地部は一部に弥生時代の遺物包含層が認められるものの、縄文時代の包含層の大部分が削平されていた。なお、分布調査によって古墳時代や中世に属する遺物が認められたが、今回の調査でも南東の海岸で６世紀末の須恵器坏や大形の須恵器甕の体部片、土師質土器皿、白磁片等が表面採集されている。

長崎県教育委員会編　1994　『長崎県文化財調査報告書第110集　長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－』長崎県教育委員会
山下英明　2006　「⑫久留里遺跡」『長崎県文化財調査報告書第187集　長崎県埋蔵文化財調査年報13〔平成16年調査分〕』Ｐ55-56　長崎県教育委員会

Ⅳ 本 調 査

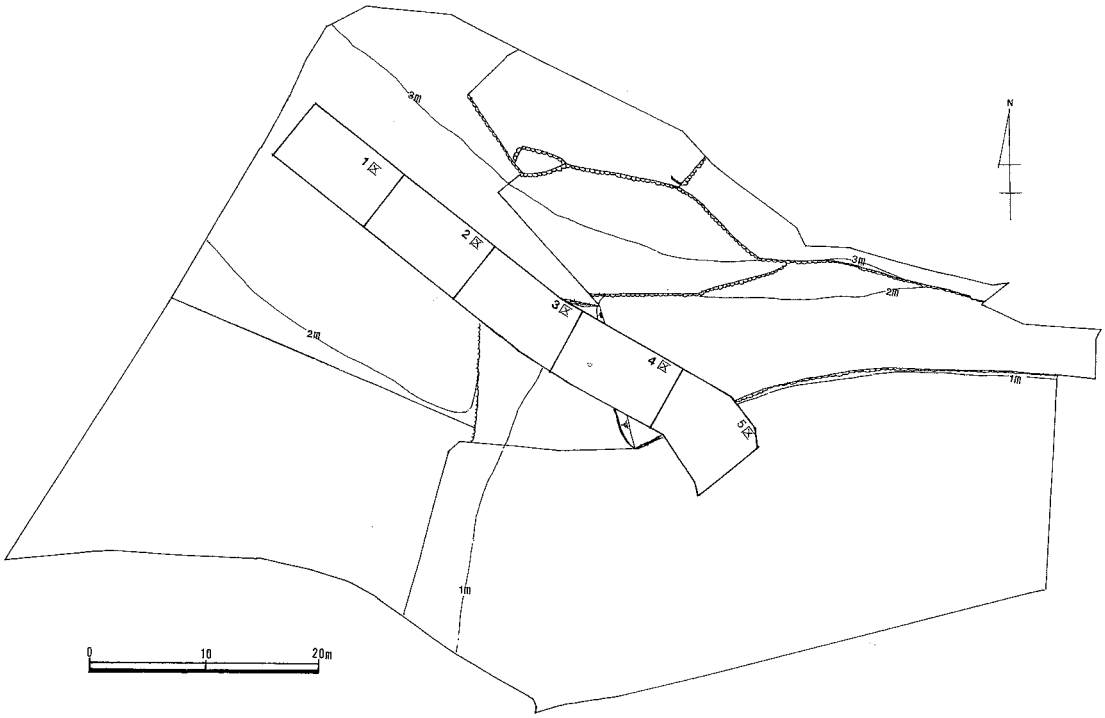
1．調査の概要（第５図・図版１～３）

遺跡の所在する時津町は、東側を長与町に北西から南側を長崎市と接している。また北側は、長崎の空の玄関口としての長崎空港が浮かぶ大村湾に面している。

遺跡の位置は、時津町役場から国道を北へ1.5km程行った久留里郷の住宅地を抜けた海岸部に所在する。この遺跡は、埋め立てによって現在陸続きとなっているが、住宅地として開発される以前は海水浴場があり、遺跡部分は鏡島と呼ばれる島であった。

現地は、第３次の宅地開発を行う計画があり、遺跡保存のための範囲確認調査を実施した。その結果、縄文時代の良好な遺物包含層が確認されたため、恒久的な道路建設を行う部分については、保存のための調査を実施することとした。

調査は、道路建設予定地の幅約６ｍ、長さ約50ｍ区間を１区間６ｍ×10ｍを１区画として西側から東側へ１～５区の名称を付して精査を実施した。その結果、縄文時代～中世時代に至る場の利用が継続していたことを知ることができた。時期別での場の利用を出土状況から確認すると、縄文時代前期から後期にかけての土器やこれらに伴う石器の道具が出土している。この時期には、漁撈、狩猟に適した生活環境条件が備わっていたと考えられ、石錘や石鏃が多数出土している。また、縄文時代以後の出土資料として、弥生時代、古墳時代、古代、中世の遺物をそれぞれ確認しているが、何れの時期も遺物数量は僅かで、久留里遺跡を拠点とした生活が窺えず一時的な場の利用として捉えることができる。



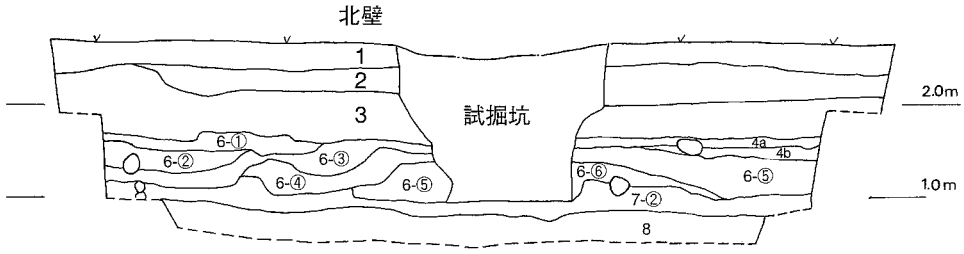
第５図　本調査区配置

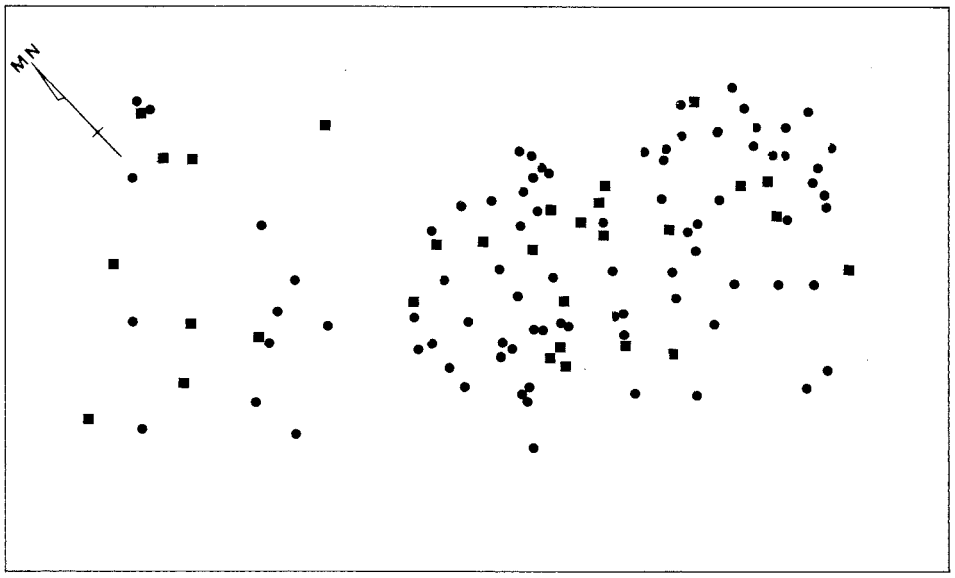
2．土層（第6、8、9、10、13図）

基本層序は、1層に耕作土、2層は暗茶褐色土、3層は暗黄色砂、4層暗赤褐色砂、5層明灰白色砂、6層砂礫層（1区と2区の一部で堆積）、7層黒灰色砂礫層、8層暗緑色砂礫層となっている。

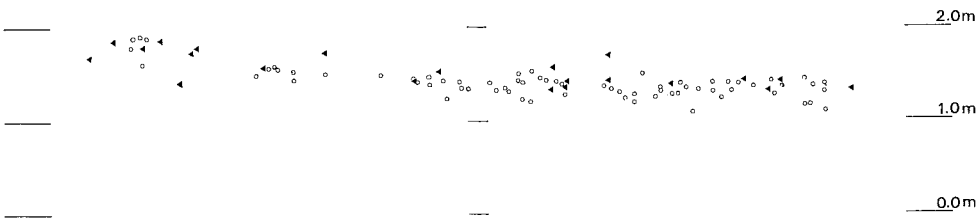
地区ごとの層序については、若干分層をしているので説明を加える。

1区の土層：1層表土、2層茶褐色土（安山岩粒5㎜程が層に混じり固く締まる）3層は暗黄色砂（土師器高杯が層上面から出土、10cm以下からは弥生土器が出土している。）4ａ層は暗赤褐色層（縄文時代時代後期の遺物が出土している）4ｂ層に明赤褐色砂層（遺物は縄文時代後期の遺物が出土している）6層①は、暗赤灰色砂、6層②は、淡黄灰色砂、6層③は、淡暗黄灰色砂、6層④は、暗灰色砂、6層⑤は、安山岩小礫混入砂（10cm前後）6層⑥は6層③に類似する淡暗黄灰色砂、





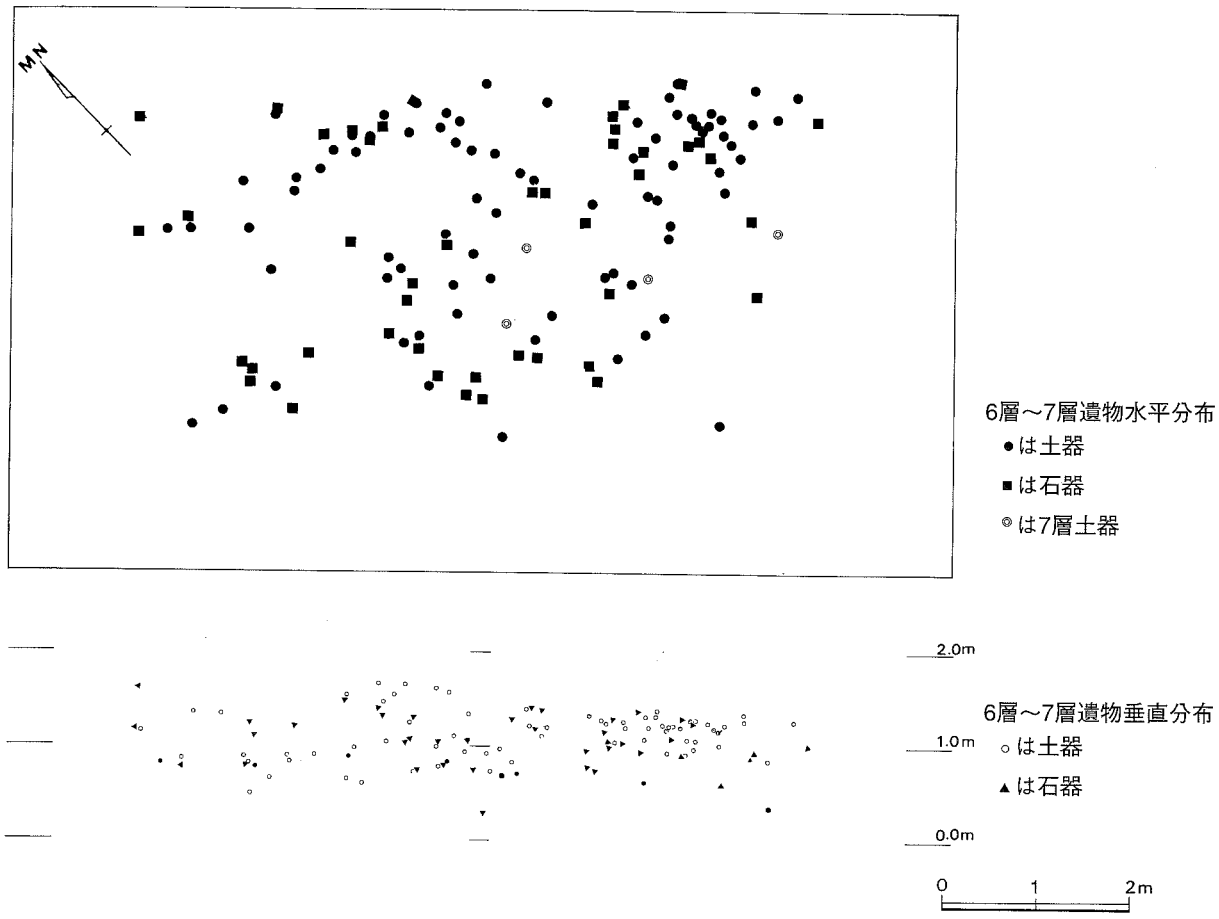
4層出土遺物水平分布
●は土器
■は石器



4層出土遺物垂直
○は土器
▲は石器

0　1　2m

第6図　1区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）



第７図　１区（遺物水平分布・遺物垂直分布）

７層②は、暗灰色砂（曽畑式土器出土）８層は、暗緑色砂混礫。

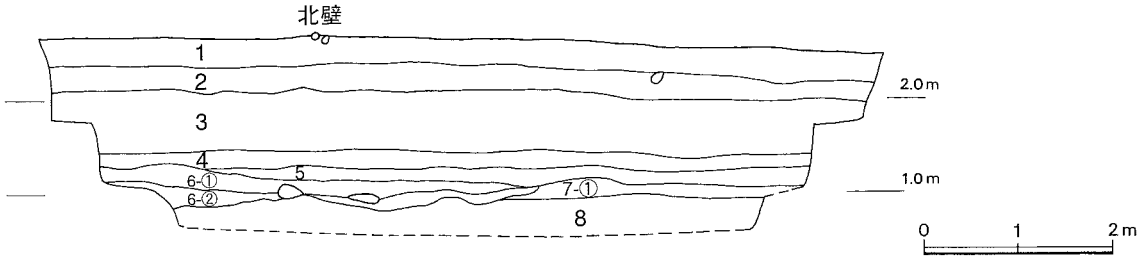
２区の土層：１層～３層については、１区と同様の堆積状況である。４層は４ａ層が無くなり４ｂ層のみとなる。５層は暗灰赤色砂の堆積が出てくる。６層は６層①と６層②が存在する。７層①は、黒灰色砂小礫混入し、８層の地山は暗緑色砂礫層となり遺物出土が無くなる。

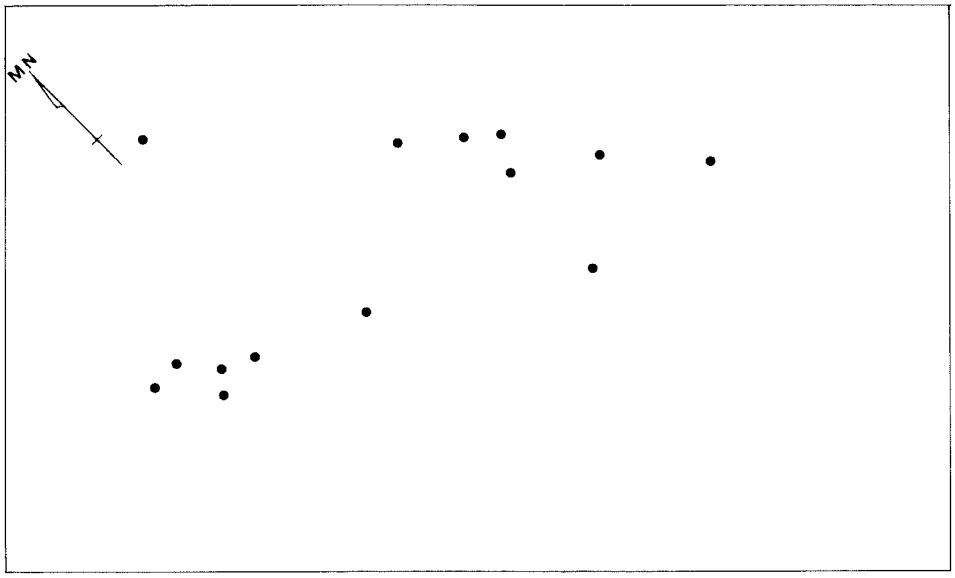
３区の土層：１層～３層については、１区と同様の堆積状況である。４層は、明灰黄褐色、５層は明灰褐色、５ｂ層淡暗灰褐色（炭化した植物が混じる）、７層①は暗灰黒色で炭化した植物が多く混入する。７層②’は、淡暗灰褐色砂礫混入(曽畑式土器出土、礫表面が鉄分の付着で褐色となる)８層暗緑色砂礫混入。

４区の土層：調査区の西側は水田耕作及び石垣によって３区の１層～４層の堆積土が削平されている。東側は、２ｃ層の暗茶褐色土が厚く堆積し、以下は３区と同様に４層～８層の堆積が確認できた。ただ、堆積土が厚く色調の変化も若干見られたので４層①を明黄褐色砂(風化礫15～10㎜混入)４層②明灰褐色砂(部分的に風化礫混入)５層は３区と同様、７層①・②も同様であるが、７層②’とした部分は礫の表面が褐色となる、８層は暗緑色砂礫

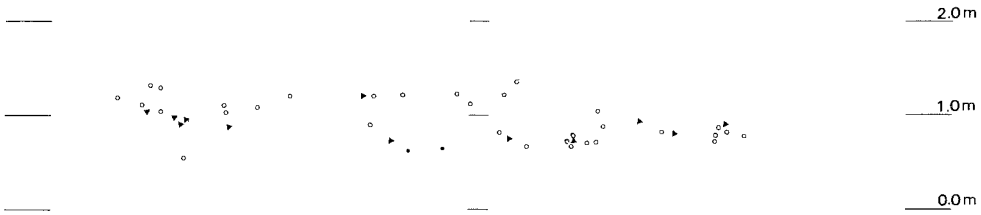
５区の土層：４区と同様の堆積であるが、東側については削平を受けていて、４層～７層が途中で消滅していた。

以上が各地区の土層堆積状況であった。

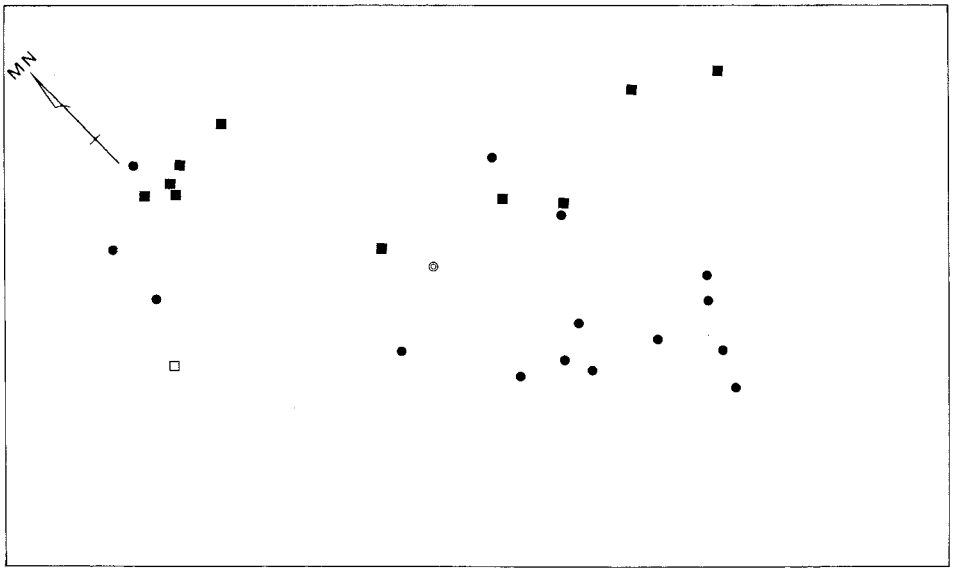




4層出土遺物水平分布
● は土器

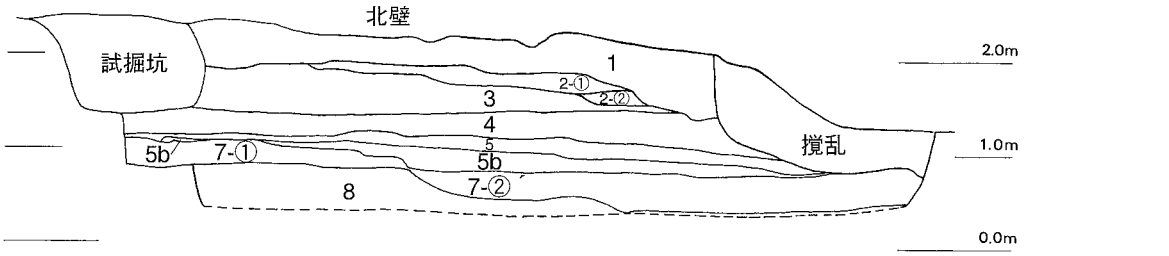


4層～7層出土遺物
垂直分布
○ は土器
▲ は石器

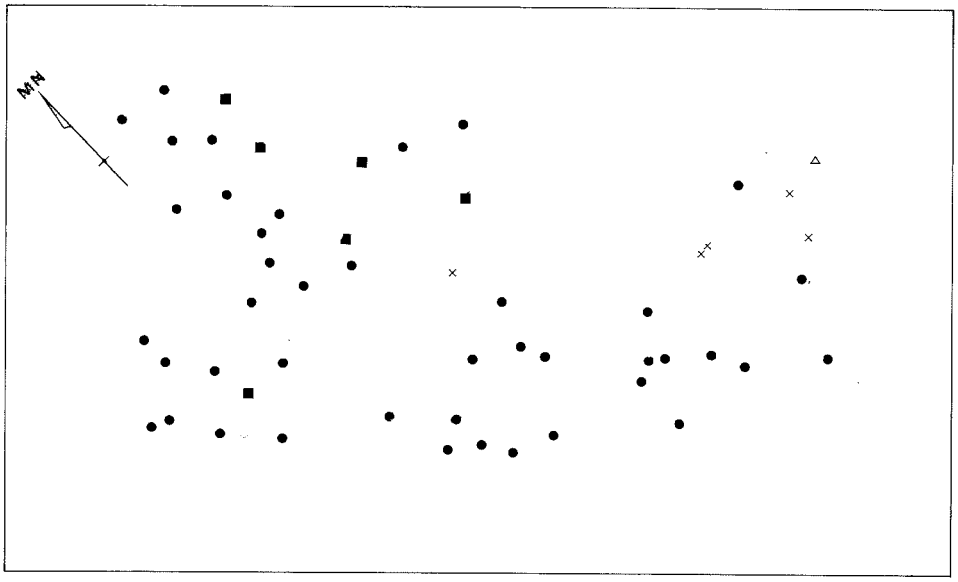


5層～7層出土遺物
水平分布
◎ は土器7層出土
□ は石器7層出土
● は土器
■ は石器

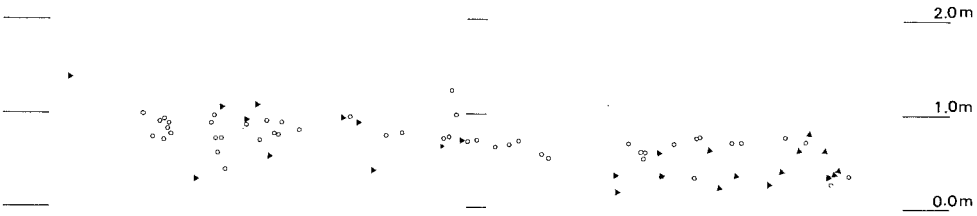
第8図　2区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）



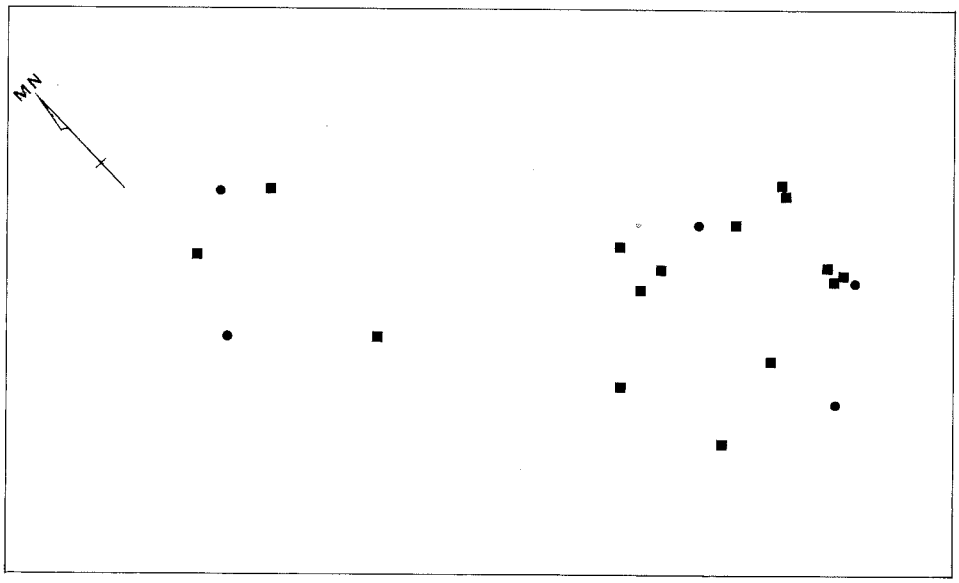
0 1 2m



4層～5層出土遺物水平分布
× は土器4層出土
△ は石器4層出土
その他は5層出土
● は土器
■ は石器

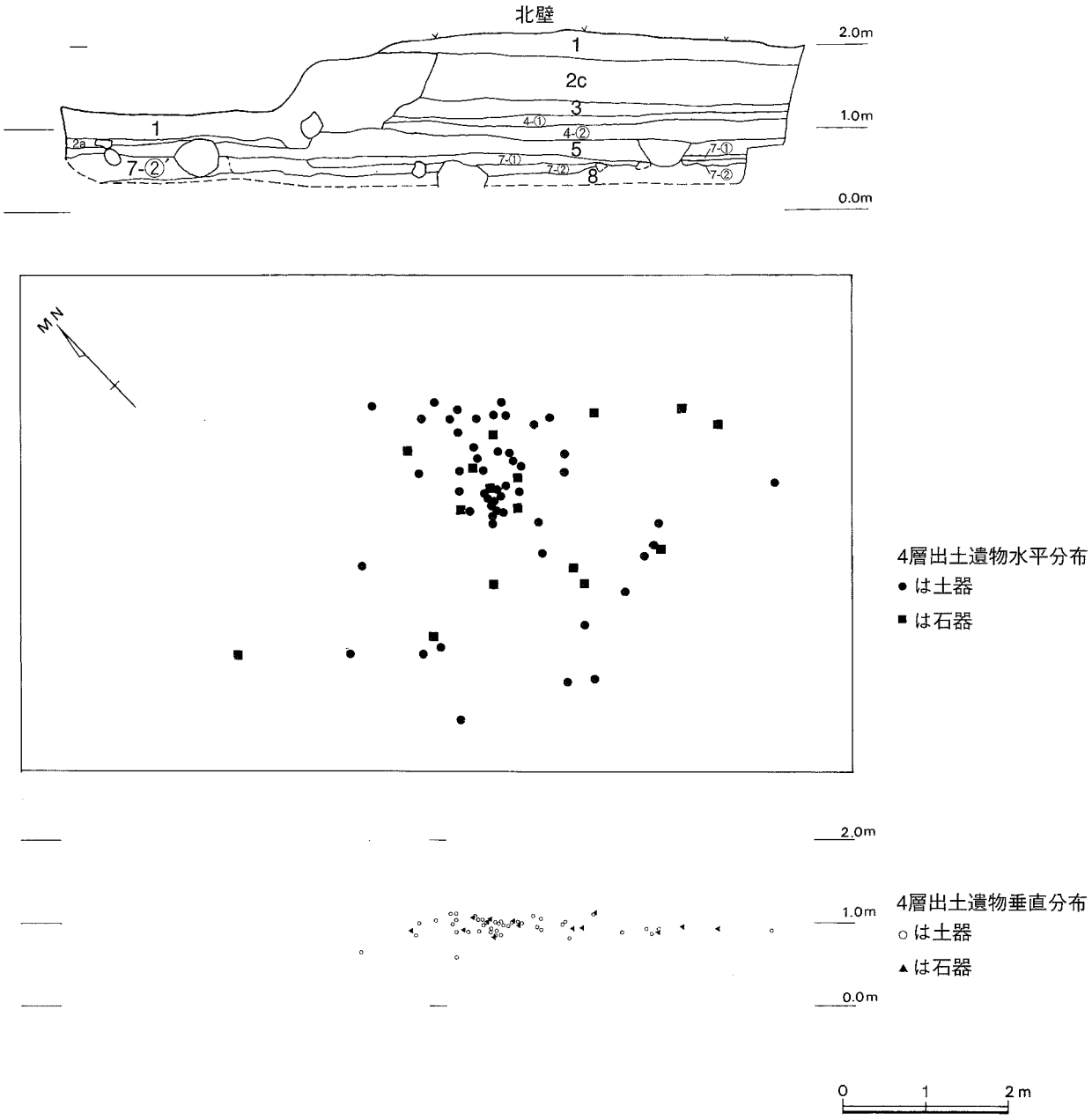


5層～7層出土遺物垂直分布
○ は土器
▲ は石器



7層出土遺物水平分布
● は土器
■ は石器

第９図　３区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）



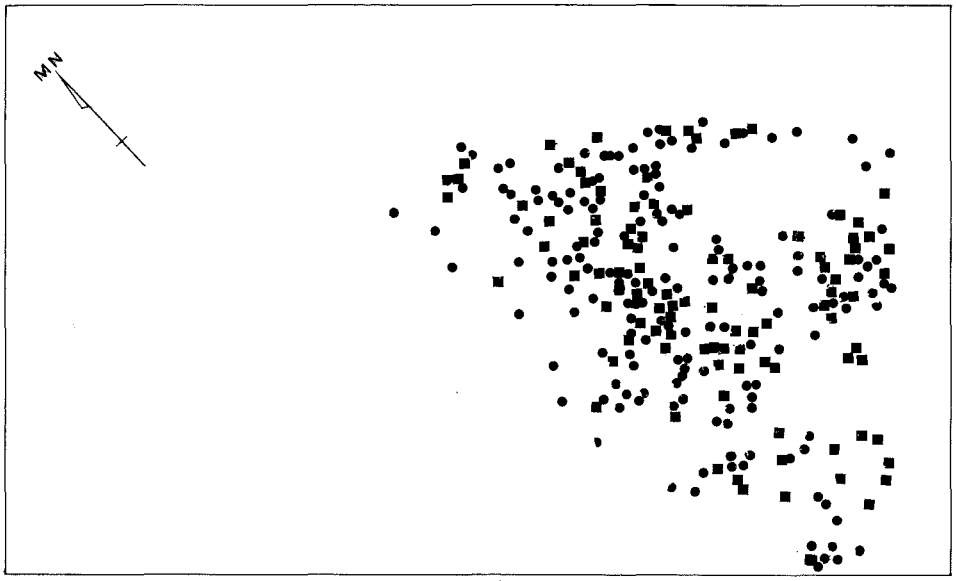
第10図　4区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）

3．遺物分布状況（第6図～第15図）

1区（第6、7図）

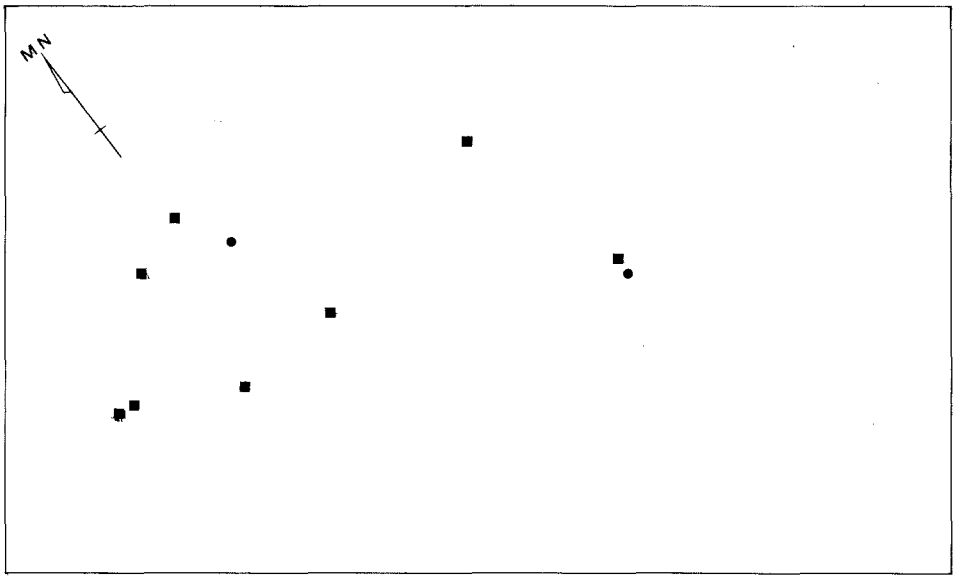
1区の出土遺物ドット点数は、土器が179点、石器が69点を取り上げた。実測した資料は、土器の20点がドット取り上げ資料である。出土した遺物の層位を見ると、4層出土の水平分布図の南東側に比較的まとまっており、標高は1.5m部分に集中した堆積状況を示している。また、6層～7層②については標高1mを境界に上へ0.5m、下へ0.5mの比高差が生じた状態で上下に遺物が出土している。

次に遺物について、7層②から出土した資料に第17図1・2がある。この他に3・4・5・6についても曽畑式土器と考えられる資料が6層砂礫層から出土している。この6層については、調査1区と2区の一部に認められた堆積層で上層、下層の判断となる色調、及び礫堆積状況からでは、掘削時に分層判断が困難であった。

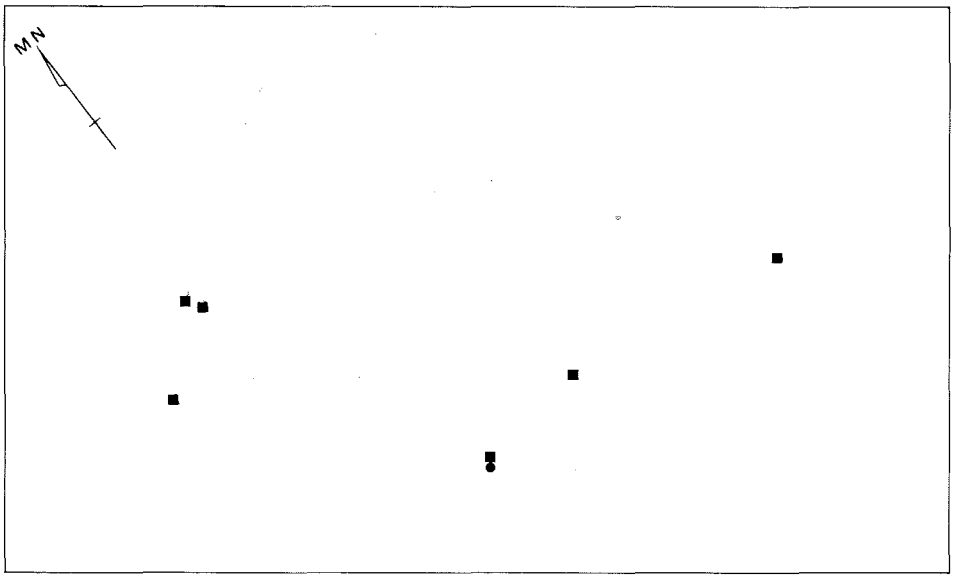


5層遺物水平分布
●は土器
■は石器

0　1　2m

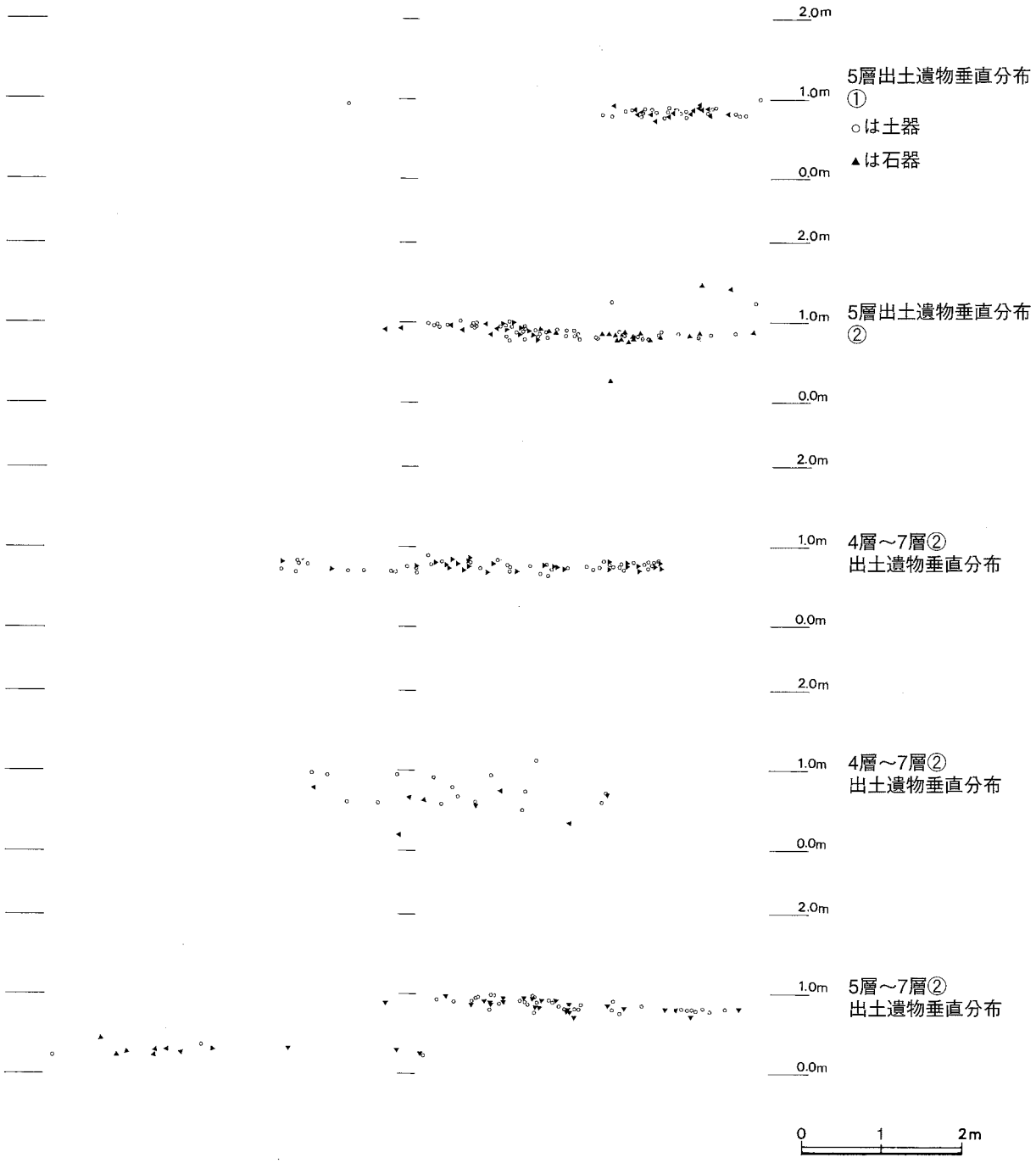


7層①遺物水平分布
●は土器
■は石器



7層②遺物水平分布
●は土器
■は石器

第11図　4区（遺物水平分布）

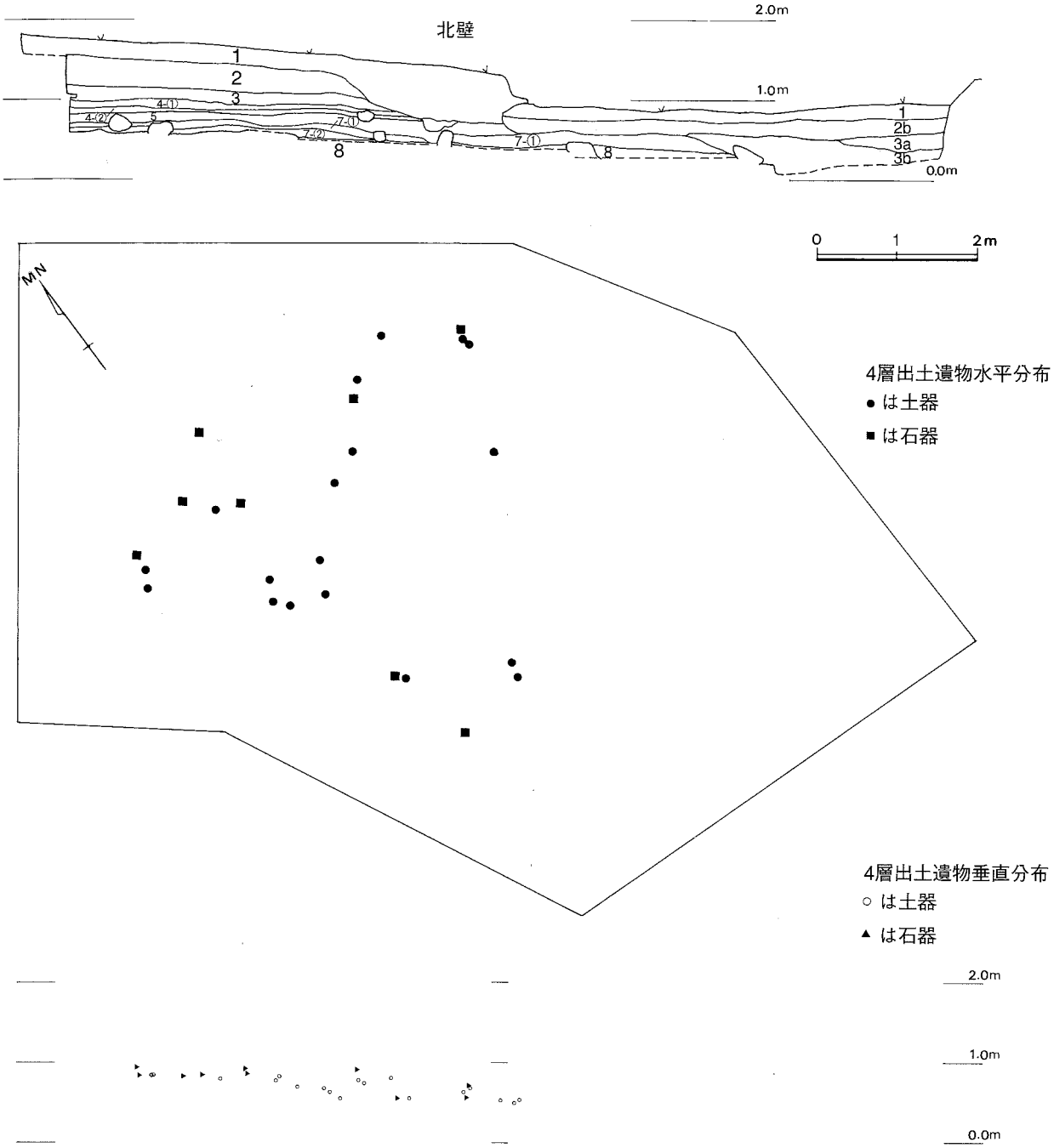


第12図　4区（遺物垂直分布）

このため、縄文時代時代中期の土器と前期の土器が6層に出土する状況である。ただし、7層②からの出土遺物については、曽畑式土器のみが出土することを確認できた。また、4層と6層とで出土遺物が明確に分けられるようで、6層は滑石を混入した土器が出土するが、4層の砂層からは滑石の混入した土器は出土していなく、縄文時代後期の北久根山式土器が出土している。

2区（第8図）

2区は標高1mを挟んで、遺物の出土が別れており、これを土層で当てはめると、4層の遺物より5層以下の遺物出土が多くなっている。

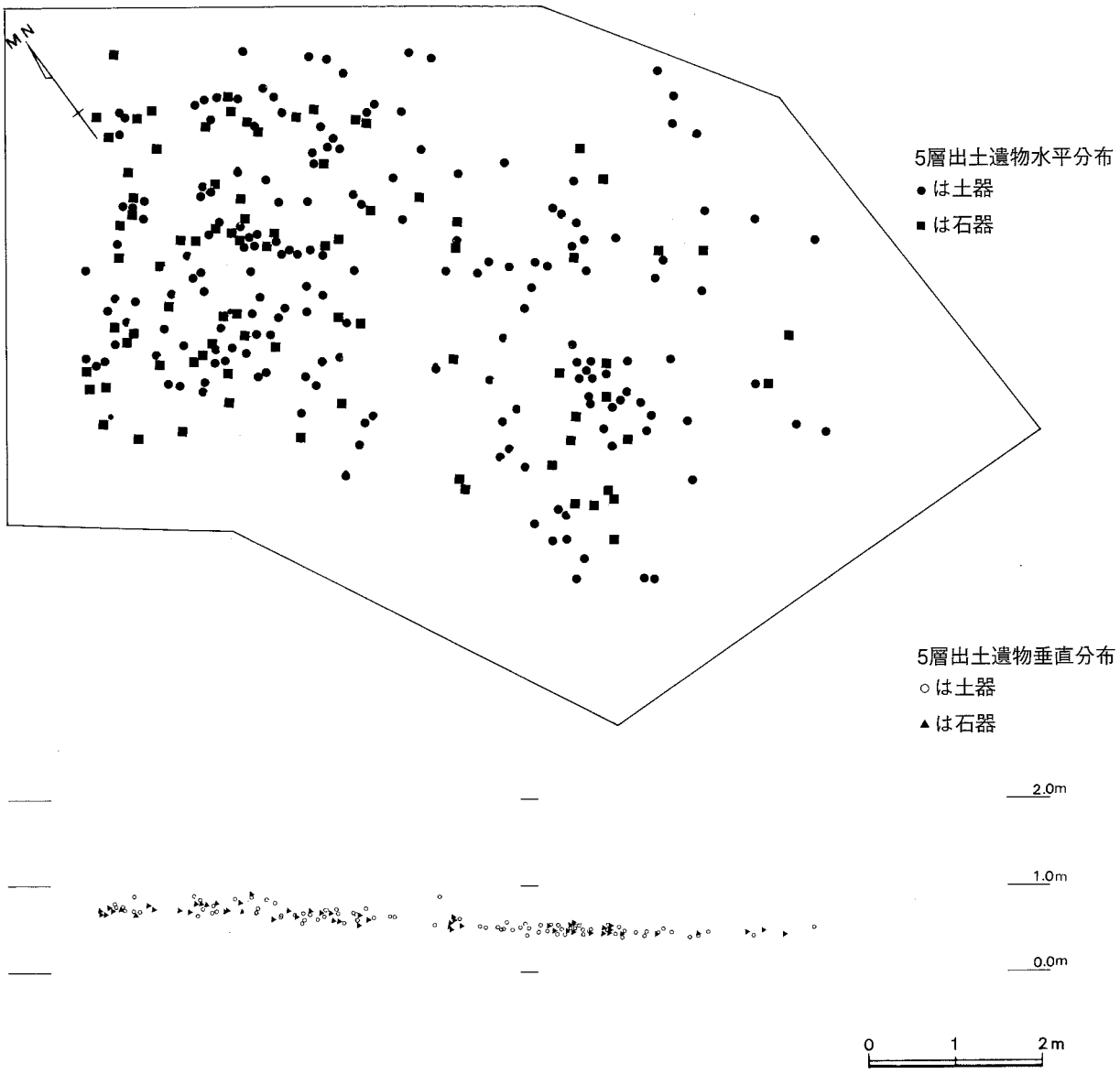


第13図　5区（土層・遺物水平分布・遺物垂直分布）

遺物のドットと取り上げ状況は土器28点、石器12点を取り上げている。調査区の全体で最も遺物出土が少ない箇所であった。滑石の混入が認められる土器は第18図23～25である。26～31は4層から出土している。

3区（第9図）

3区は標高1m以下にほぼ遺物が出土している。この地区は、地形的に約1m程の段差を生じている地区で、このため前述のような状況を示していると思われる。また水平分布では5層が比較的に調査区全体に広がり、7層②では遺物が0.2mを切る標高で出土している。



第14図　5区（遺物水平分布・遺物垂直分布）

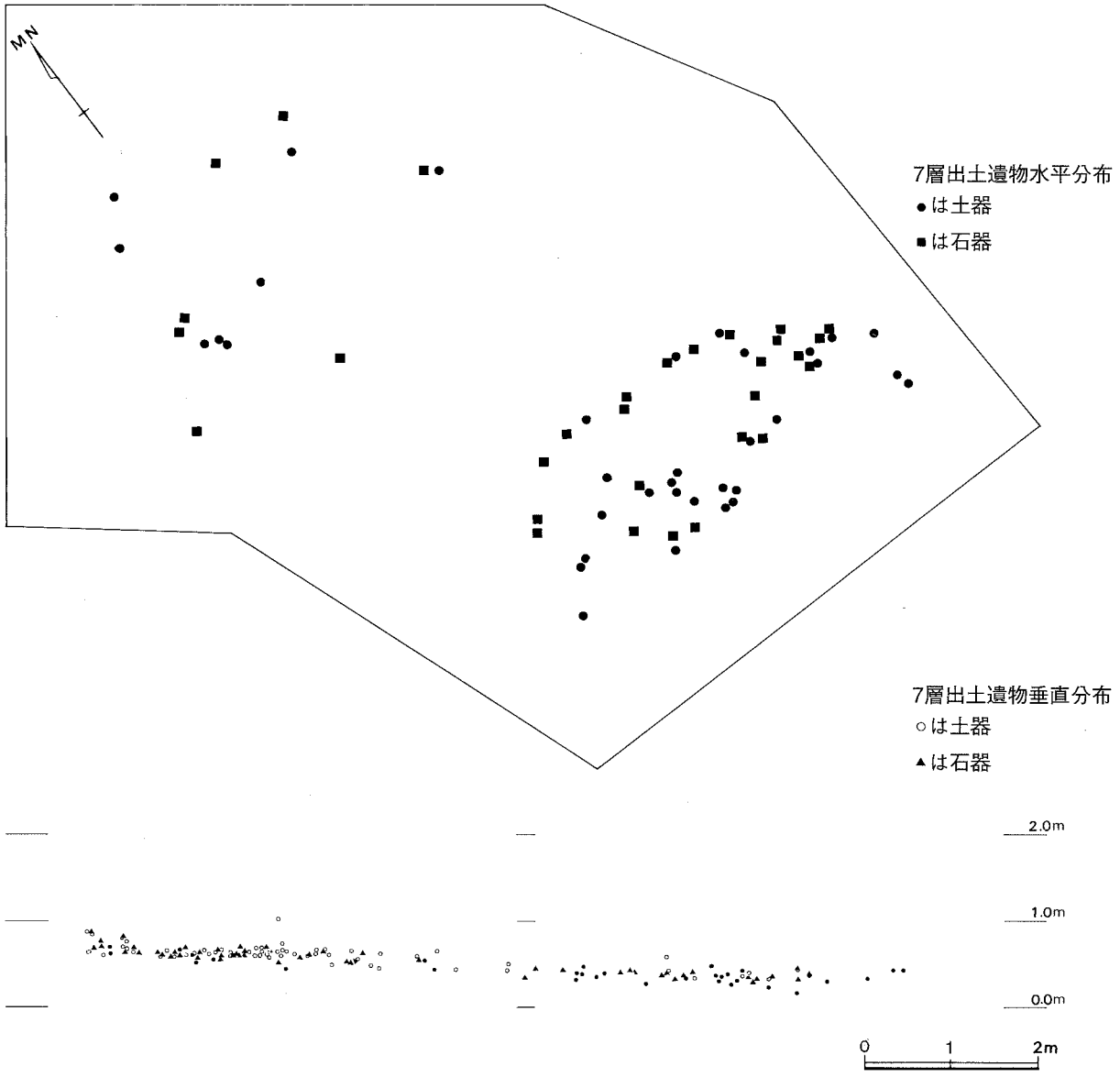
掲載した遺物では、第19図32が７層②の標高約0.4mで出土している。第19図33の阿高系土器とのレベル差が約0.6mある。この地区は北西側の７層②に石錘がまとまって出土していることが特色である。遺物のドットでの取り上げ点数は土器が50点、石器が26点ある。

４区（第10、11、12図）

４区は、４層の出土遺物が標高１mに集中した状況ではあるが、平面分布ではまばらな遺物分布状況である。５層はこれに対し、密に遺物が分布する状況にあって、標高0.9mに遺物堆積が集中している。７層②については、標高0.4mから以下に石器のまとまりが確認された。

遺物の出土点数では、全調査区で最も多くの遺物が出土した地区にあたる。ドットマップによる遺物取り上げ点数は、土器が280点、石器が158点の併せて442点を数える。出土遺物は第20図42～49までは滑石を混入する土器で、第20、21図50～62は縄文時代後期に属する。

層位で見ると５層に遺物が集中し、７層②からの出土遺物は殆ど見られない。



第15図　5区（遺物水平分布・遺物垂直分布）

5区（第13、14、15図）

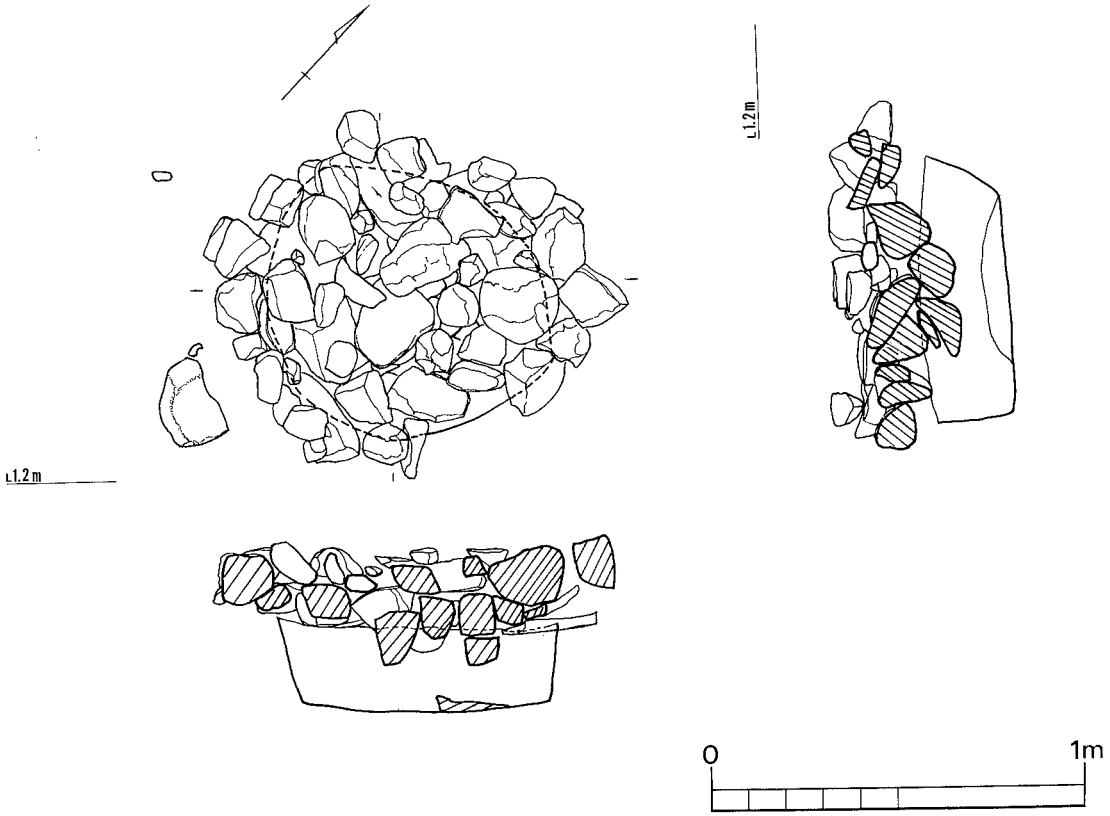
5区は、4層の遺物水平分布図ではまばらにしか分布していない状況を確認できるが、遺物堆積状況は、標高は0.8m部分に集中していることが言える。5層面での遺物の水平分布状況は様相が急変し濃密な出土状況を示している。また、遺物の垂直分布では5層の遺物は、標高0.8m～0.4mの西側から次第に東側へ地形の傾斜に合わせて降りてくる安定した堆積状況を示している。次に、7層①出土の遺物水平分布状況は、狭い調査区内で北西側と南東側に分かれた状況で遺物が分布し、遺物の垂直分布では標高0.7m～0.2mで5層と同じく、地形に沿った堆積で推移している。

調査区全体の遺物出土状況を見ていくと南東側で、一部削平を受けていることが北壁土層でも確認できる。このため、ドットマップにおける遺物水平分布状況は、5層堆積の遺物が密に見られるが、南東側については、削平の影響を受けており、調査区の端に移行するにしたがい遺物がまばらとなる。これと比較した場合に7層①出土の遺物がまとまりをもって出土している部分が目立つ。

掲載した遺物の第22図75以外は滑石を混入した土器である。７層①の遺物が集中する標高は、0.4m～0.8mラインに認められる。ドットマップによる遺物取り上げ点数は、土器が235点、石器が133点の合わせて368点を数える。

4．遺構（第16図）

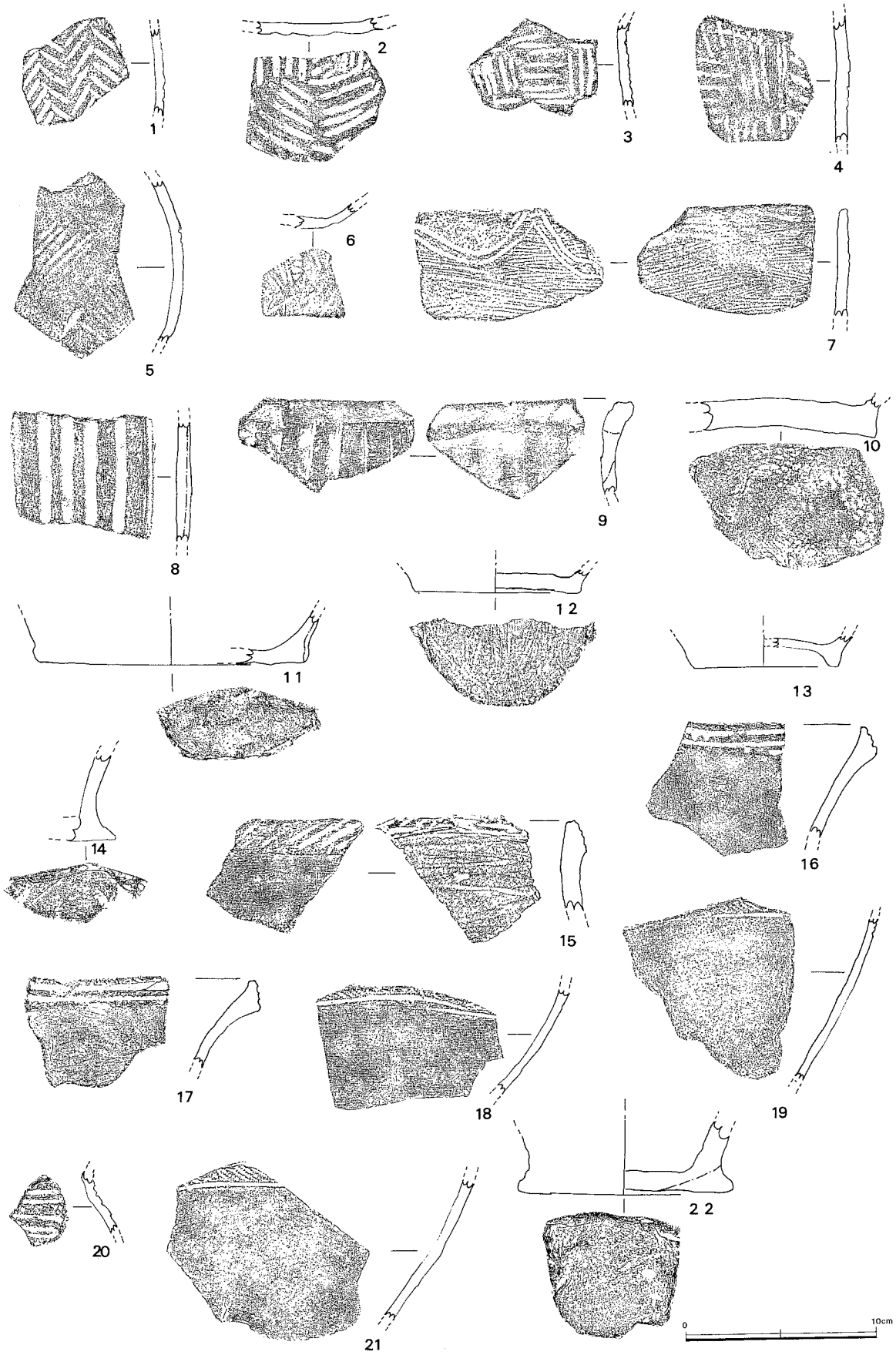
４区に径１m程の集石（貯蔵穴）を検出している。集石は、４ｂ層面に検出し、５層～７層を掘り下げて土坑としている。この土坑内下部は、常時水が浸った状況であることから堅果類の貯蔵が目的で造られたと考えられる。下部構造は、最大径75cm、深さ約25cmのほぼ円形をした土坑で、断面に炭化した木片（26cm、16cm）が残る。この木片が土坑の蓋の役割をしていたものと推測される。上部の構造は、集石の径が、最大で115cmで20cm代の礫が中央に落ち込む。また礫と礫の隙間を埋めるように10cm内外の小礫が覆っている。この集石で木の蓋が流れ出ないように重しの役割をしていたと想定される。集石最大の厚みが約30cmを測る。集石から10cm程離れた南西側から同レベルで石皿が出土している。



第16図　集石（貯蔵穴）

5．遺物（第17図～第33図・第２表～第３表・図版４～14）

出土遺物は、5,000点以上に上り、縄文時代前期から中世までに及んでいる。今回の出土遺物については、報告までの時間・予算の制約から調査地区ごとのドットによって取り上げた遺物を優先的に実測し、層で取り上げた遺物については、調査区間のベルト掘削で出土した標準的な遺物の実測を報告している。



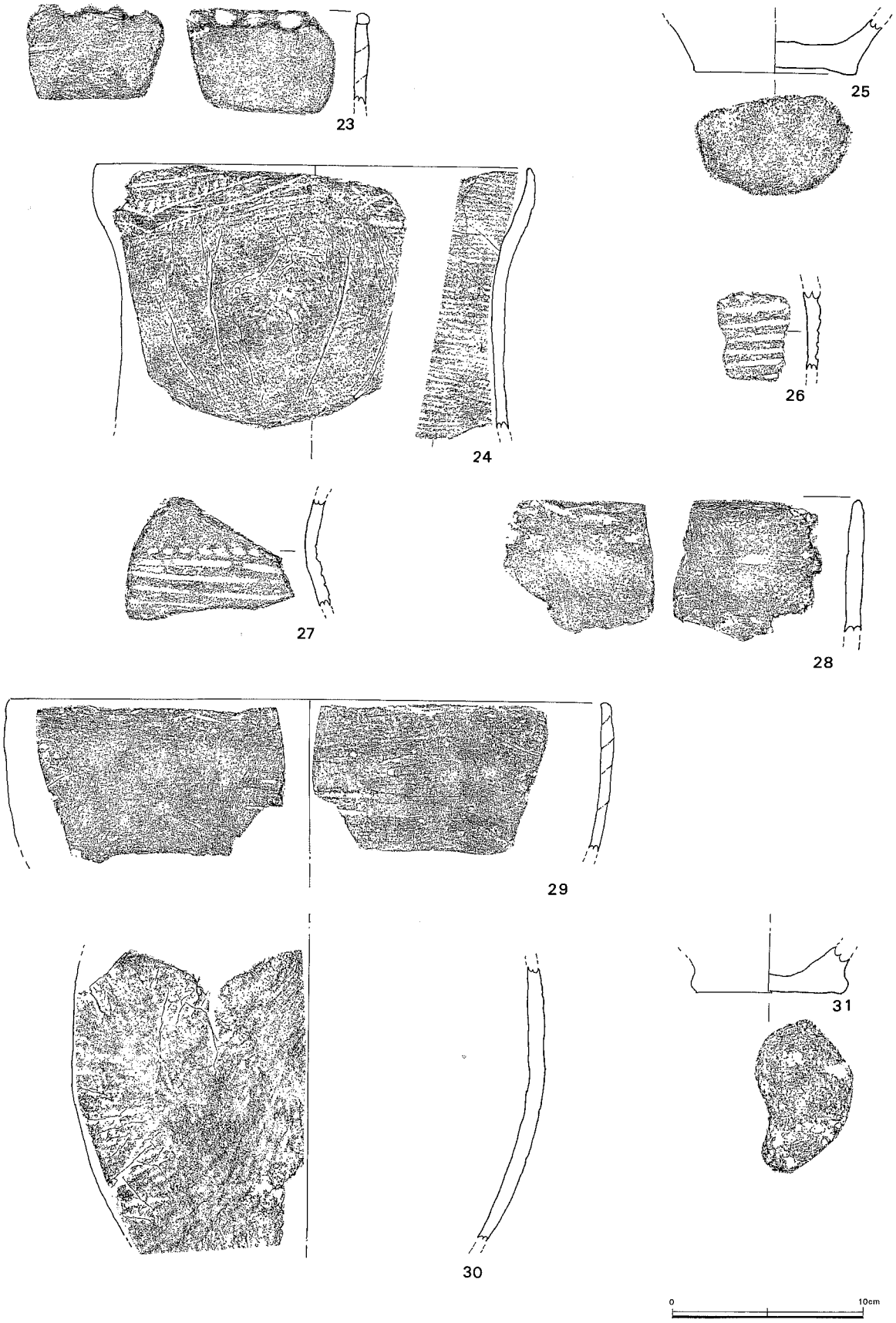
第17図　1区出土土器

1区出土土器（第17図・図版4）

1は長さ1.95cm×幅3㎜の沈線を山形に繰り返し行い矢羽根状の文様を付けた鉢形土器。内外面茶褐色を呈し滑石を混入する。2は長さ3.3cm×幅3㎜の沈線を棒状工具で幾何学的に付けている。色調は、外面が赤色で内面は白灰黄色を呈し、滑石を混入する丸底の底部片。3は滑石を混入しない曽畑式土器。口縁部外反に近い土器片で、頸部が括れる深鉢形土器。色調は外面が灰黄色で内面は黄褐色を呈し、2㎜幅の棒状工具で正方形状の沈線を描く。4は滑石の混入なし。浅い沈線を1.5㎜幅で描く。胎土に2㎜程の長石、玄武岩粒が混じる。5は滑石を含まない曽畑式土器。外面に煤の付着あり。色調は外面が灰黄色、内面は黄灰色を呈する。6は滑石混入の曽畑式土器。底部の外面に3本の沈線と立ち上がり部に刺突列点文と沈線を有する。色調は、外面が暗茶褐色で内面は鈍い灰銀色を呈する。7は滑石混入の轟C式土器系。条痕の上から2本の沈線による弧を連続して描く。内面にも条痕による成形痕を残している。色調は外面が暗黄茶色で内面は明茶灰色を呈する。8は滑石混入土器。6㎜幅の施文具で縦位の文様付ける。阿高Ⅱ式土器の胴部片。色調は、外面が赤褐色、内面は灰銀色の精製された粘土で焼成されている。9は滑石混入の阿高系土器。口唇部の幅1cm程をほぼ平坦となすため粘土紐を一段積み上げている。施文は指による成形で外面は、爪を立てて縦位に連続した1.5cmの凹線文を付ける。内面は指腹による押さえとし、口縁部は指を斜めに連続して押し当てて成形した痕を残す。色調は内外面ともに赤褐色を呈する。10は滑石混入土器。色調は、内外面赤褐色を呈する底部。底部はやや上げ底気味で、表面に小円が連続して大きな円の文様を形づくる。鯨の脊椎を土器成形時に台として使用した痕跡と思われる。11は滑石を混入した土器底部。底部の外面に凹凸が顕著に残る。滑石を1.5㎜程の大きさに砕き粘土と混ぜ合わせている。色調は、外面が赤褐色、内面は黄灰色を呈する。器壁は7㎜程、底部の厚み8㎜程で最大径14.2cmを測る。12は滑石を混入した土器底部。外底はやや上がり気味で、条痕をナデ消した状態としている。色調は、内外面ともに赤褐色で、胎土に最大5㎜程の滑石が混じる。底径最大8.8cm、厚さ7㎜を測る。13は滑石を混入した土器底部。薄い器壁の上底の底部を形成している。色調は外面が灰黄色、内面灰白色を呈する。上げ底の底部で滑石を混入した後期の土器。14は滑石混入の底部平底とした土器。色調は、外面が灰黄色に赤味を帯び、内面は明灰黄色を呈する。15は外面が白黄色で内面は煤の付着で黒味を帯びた灰黄色を呈する。口縁部外面に斜位の沈線を連続させ、口唇部に刻みを巡らしている。北久根山式土器。16は西平式土器。口縁部に3本の沈線を引き、3ヶ所に押点を付けている。内外面ともに丁寧なナデ成形を行う。色調は外面が暗茶褐色で内面は淡黄色としている。17は口縁部に2本の沈線で縄文の文様を分断した磨消縄文土器。色調は外面が淡黄色、内面は黄灰黒色を呈する。18は西平式土器。沈線を引いた上部に縄目の文様を付けている。器面は、内外面ともに棒状工具（幅4㎜）によるナデと押さえによる成形を行った磨消縄文の深鉢形土器片で19・21は同一個体と思われる。20は縄文の上から沈線（幅2㎜）を描く。上部に半竹管による列点を付す。色調は外面が灰黄色で内面灰黒色を呈する。22は底部の径が5.6cmを測る縄文時代後期の土器。滑石の混入なし。幅5㎜程の工具で斜位に底部からの立ち上がりを成形した痕が3条残る。色調は外面底部が桃色で、立ち上がり部分は灰黄色、内面は灰黒色を呈する。

2区出土土器（第18図・図版5）

23は滑石混入土器。口縁部を波状に作り出す。色調は内面が灰黒色で外面は灰茶色を呈する。やや



第18図　2区出土土器

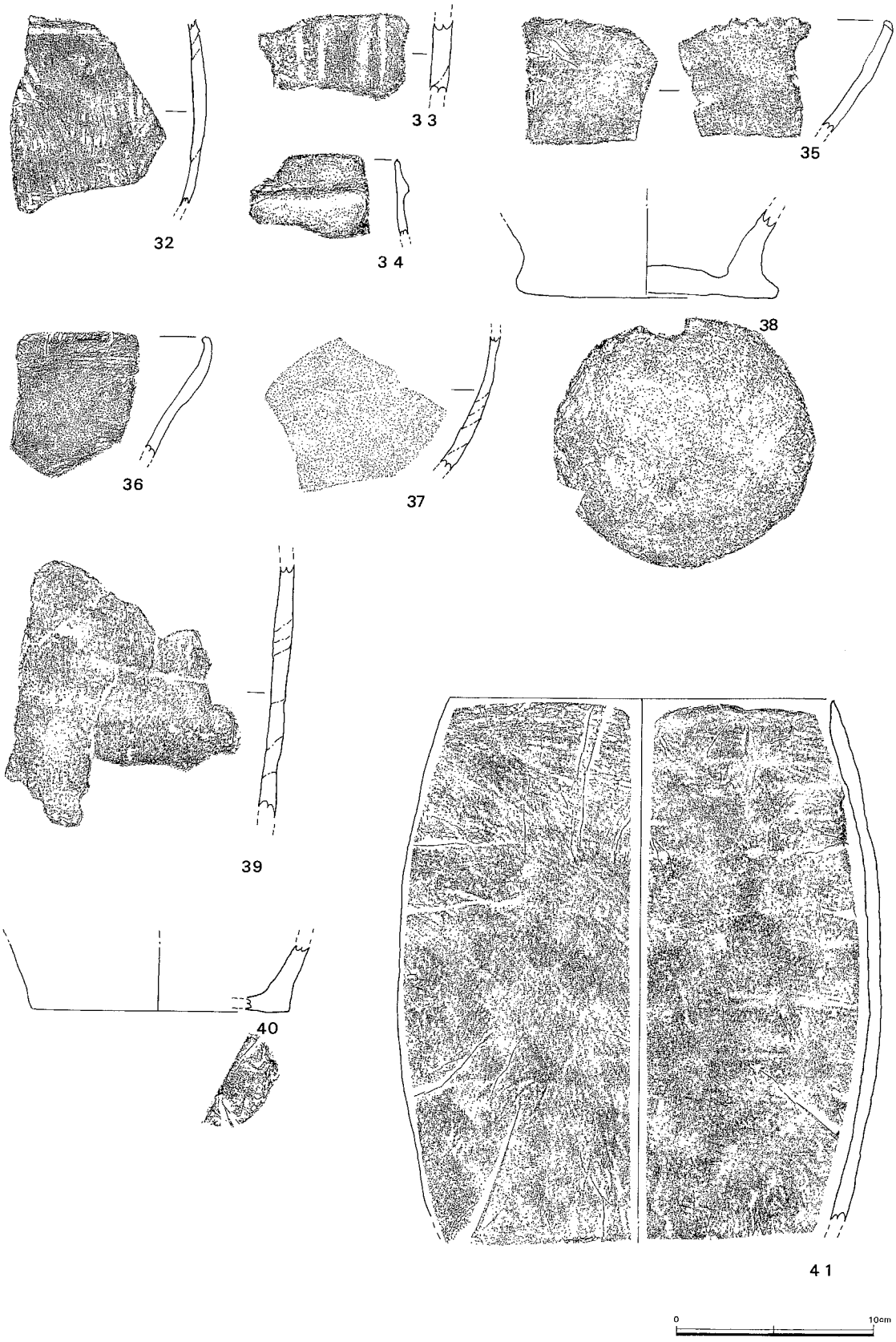
風化し磨耗した器面となっている。24は滑石混入の土器。内外面を条痕成形し、外面の口縁部に沈線による線描きと貝殻による擬似縄文及び格子文で装飾する。器形はキャリパー状に口縁部が内湾する。25は滑石混入土器。底をやや上げ底としている。外底面に指形成痕が残る。底部からの立ち上がり部分に条痕が残る。底部の厚み1.4cmを測る。26は縄文時代後期の西平式土器。沈線で区画した部分に磨消縄文を付ける。色調は外面灰茶褐色で内面は灰黄色を呈する。27は胴部に磨消縄文と沈線を描き頸部でくびれて口縁部へ外反する。頸部に列点を連続して横位に並べている。28は縄文時代後期の深鉢土器。内外面の器面の潰しを行い滑らかな器面を成形している。胎土は比較的精製された粘土を使用している。色調は外面が黄灰色で内面は暗灰黄色を呈している。29は器面の内外面を滑らかに成形し、胎土も精製された粘土を使用する。色調は外面が淡灰黄色で内面は暗灰黄色を呈する。器形は口縁部を内湾気味とした縄文時代後期の鉢形土器。30は外面に粗い条痕成形が残る。胎土は粗く、2.5mm程の長石粒が多く目立つ胴部片。31は滑石の混入なし。色調は外面が明淡黄色、内面は暗灰色を呈する。

3区出土土器（第19図・図版6）

32は滑石が若干混入する曽畑式土器Ⅳ類。上部に沈線（幅2mm）を横位に引き下部を浅い綾杉文で飾る。色調は内外面ともに黒茶色を呈する。33は阿高式系土器。滑石混入する。幅4mm程の施文具で縦位の沈線を描く。厚さ9mmを測る。34は滑石を混入する。口縁部の下部に段を持つ。色調は内外面ともに焦茶色を呈する。35は滑石混入の土器。口唇部に刻みを付けた浅鉢。外面に指による成形痕が残る。色調は外面が赤褐色で内面が暗灰黄色を呈する。36は口縁部を内湾させキャリパー状の口縁としている。口縁部にわずかに不規則な沈線と縄目の文様が付き、頸部には弧状の沈線を描いた以下に浅い沈線2本が巡る。滑石の混入はない。37は無文の土器の胴部片。38は滑石混入の底部。円盤状に形をとった底部に胴部立上あがりの粘土を乗せる。内面に指による底部との接合形成が残る。底径13.1cmを測る。39は滑石の混入なし。器面は比較的滑らかな成形とするが、内面に若干条痕が残る。40は滑石混入の土器底部。若干底部の外面に膨らみがある。41は外面を左斜から右斜へ条痕で全体を成形し、口縁部を内傾させ内面に指押さえと口縁部辺に条痕が残る。色調は外面が灰黄色で内面は灰茶色を呈する。

4区出土土器（第20図、第21図・図版7）

42は3層上面から出土の滑石混入曽畑式土器。沈線を横位と斜位に描く。色調は、外面暗緑色で内面は暗赤褐色。43は滑石混入の土器。口縁部以下に凹線を引きその下に押点を付す。また、口唇部の外側に丸い刻みを連続させ、口唇頂部は平坦としている。44は滑石混入の土器。口縁部に粘土帯を貼り付けた部分に直線的な刻みを入れる。口唇部は比較的平坦に作る。色調は内外面赤褐色を呈する。45は滑石混入土器。横位の凹線を入れた阿高式系土器。文様の凹線幅が7mm、深さ3mmを測る。46は底部に刻みを入れる。色調は内外面ともに赤褐色を呈する。47は滑石混入土器。底部は上底としている。色調は、内面黒灰色、外面は灰黒色で底径11.4cmを測る。48は滑石混入の土器。色調は外面が灰茶色で内面は黒色を呈する浅鉢。49は滑石が2mmの粒子が胎土に多く混入するが、滑らかな器面にはなっていない。色調は、外面が明黄灰色を呈し、内面は黒色を呈する。底部は円盤状の粘土に輪積を行って立ち上がる。50は縄文時代時代後期の無文土器。滑石の混入はない。内面は黒く煤が付着し、外面は灰白色を呈する鉢形土器。器面は風化しざらざらする。51は滑石の混入なし。工具による刺突列点を口縁部以下の二段に連続で横位に付けている。器面はざらざらしている。口唇部は丸味を持ち

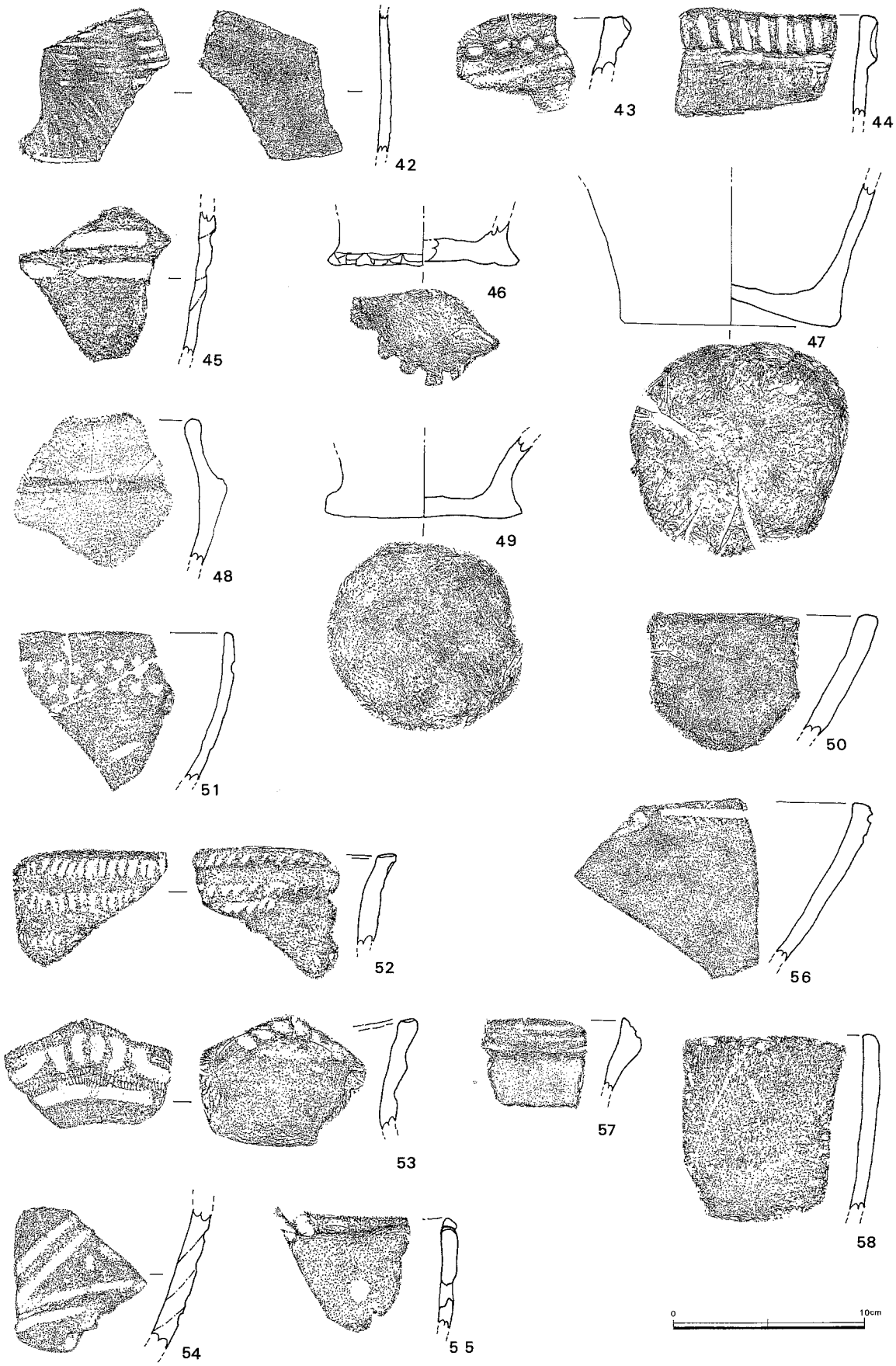


第19図　3区出土土器

6㎜程度で比較的薄く作り上げている。色調は外面が茶灰色、内面は黄灰色を呈する。52は器面がざらつき刺突連続半管形の文様を外面に3段付す。口唇部に刻みの連続を内面の口縁下に二段の縦長刺突を横に連続させている。器形は口縁部で外反する御手洗A式土器。色調は外面が暗茶灰色で内面は暗黄灰色。53は波状口縁をなし、口唇部に刻みを入れる。口縁以下は押点と凹線を組み合わせ、間を方形列点（3㎜×2㎜）で埋めている。54は滑石の混入なし。沈線による文様が横位に2本と斜位に2本描く縄文時代後期の土器。色調は内外面ともに灰黄色。55は滑石の混入なし。穿孔のある山形口縁の土器片で、口縁部に刻みと突起を付している。器面はざらつき鉱物粒（0.5～1㎜）が目立つ。56は縄文時代後期の西平式土器。口縁端部から沈線を描き、沈線の両上下は磨消縄文を付ける。「,」状の沈線が正面左に見える。色調は外面が明黄色で内面は灰黄色を呈する。57は滑石の混入なし。口縁部に浅い沈線が3本巡り器面はざらつく。色調は内外面ともに暗黄色を呈する。58は結晶片岩粒（1㎜以下）が胎土に混入するが、滑石は混入しない。僅かに条痕が器面の内外面に残る。色調は、内外面ともに暗茶黒色を呈する。59は滑石の混入なし。色調は外面が淡黄灰色で内面は暗黄灰色を呈する。60は滑石の混入なし。器面の色調は内外面ともに灰白色で、器面は風化してざらつく。底部の径は9.0㎝を測る。61は滑石の混入なし。やや上底気味の底部。内面に条痕成形の一部が残る。色調は、外面が淡黄灰色で内面は灰黄色を呈する。62は滑石の混入なし。器面の外面がざらつき、色調は、内外面ともに灰黒黄色。底径は最大12.1㎝を測る。

5区出土土器（第22図・図版8）

63は滑石混入の曽畑式土器で、口唇部に浅い刻み目を付す。口縁部に3本の沈線を引き以下に山形と横線で文様を構成している。また、内面に一本の沈線を引いて山形の口縁としている。色調は外面が黒茶色で内面は暗灰茶色を呈する。64は滑石混入の並木式土器片。口唇部に刻みを付け口縁部に刺突文を付け以下は条痕をナデ潰し滑らかである。内面も条痕成形をナデ潰して滑らにしている。色調は外面が黒茶色で内面は鈍い銀黒色を呈する。65は滑石混入の並木式土器。口唇部を平坦にし、胴部で施文に使用した工具を口唇部に連続刺突する。口縁部から胴部の文様は刺突列点を連続させて、迷路状のジグザグ文様を付けている。器形は直線的に延びた口縁の深鉢となる。66は滑石混入の土器。幅3.2㎝の帯状の粘土を口縁部に貼り付けて、工具による刺突列点を付けている。内面は条痕成形をさらにナデて滑らかにしている。色調は、外面が暗赤褐色で内面は暗茶色を呈している。67は滑石混入土器。口唇部を指による押圧によって波状となす。また口縁部以下を指による列点を付ける。色調は、内外面ともに銀茶褐色を呈する。68は紐穴のある滑石混入土器。色調は外面が鈍い黒茶銀で内面は鈍い茶銀色を呈する。69は滑石混入の底部土器。底部は上底となり、中央部の厚さが10㎜ある。底部の外面には、鯨の脊椎状の凹凸の文様が見られる。内面は滑らかに成形されている。色調は、外面が黄灰色で内面の底は黒色で側面は暗赤灰色を呈する。70は滑石混入の土器。底部径は11.7㎝で平坦な底部で色調は、内外面ともに灰茶色を呈する。71は滑石混入のミニチュア土器で底部径は6.2㎝を測る。色調は内外面ともに鈍い銀色を呈する。72は滑石混入の底部土器。底部は、高台を作出したような上底としている。外面底部は条痕成形後に器面を滑らかにしている。色調は内外面ともに暗灰色を呈する。73は滑石混入の無文土器。器形は内湾し、口唇部に丸味を持つ。色調は内外面とも赤褐色を呈する。74は滑石の混入なし。口唇部に刻みを付け、口縁部が外反気味となる。色調は、外面が明茶色で内面は黒色を呈する。75は滑石の混入なし。平坦な底部をなすが、器面はざらざらしている。

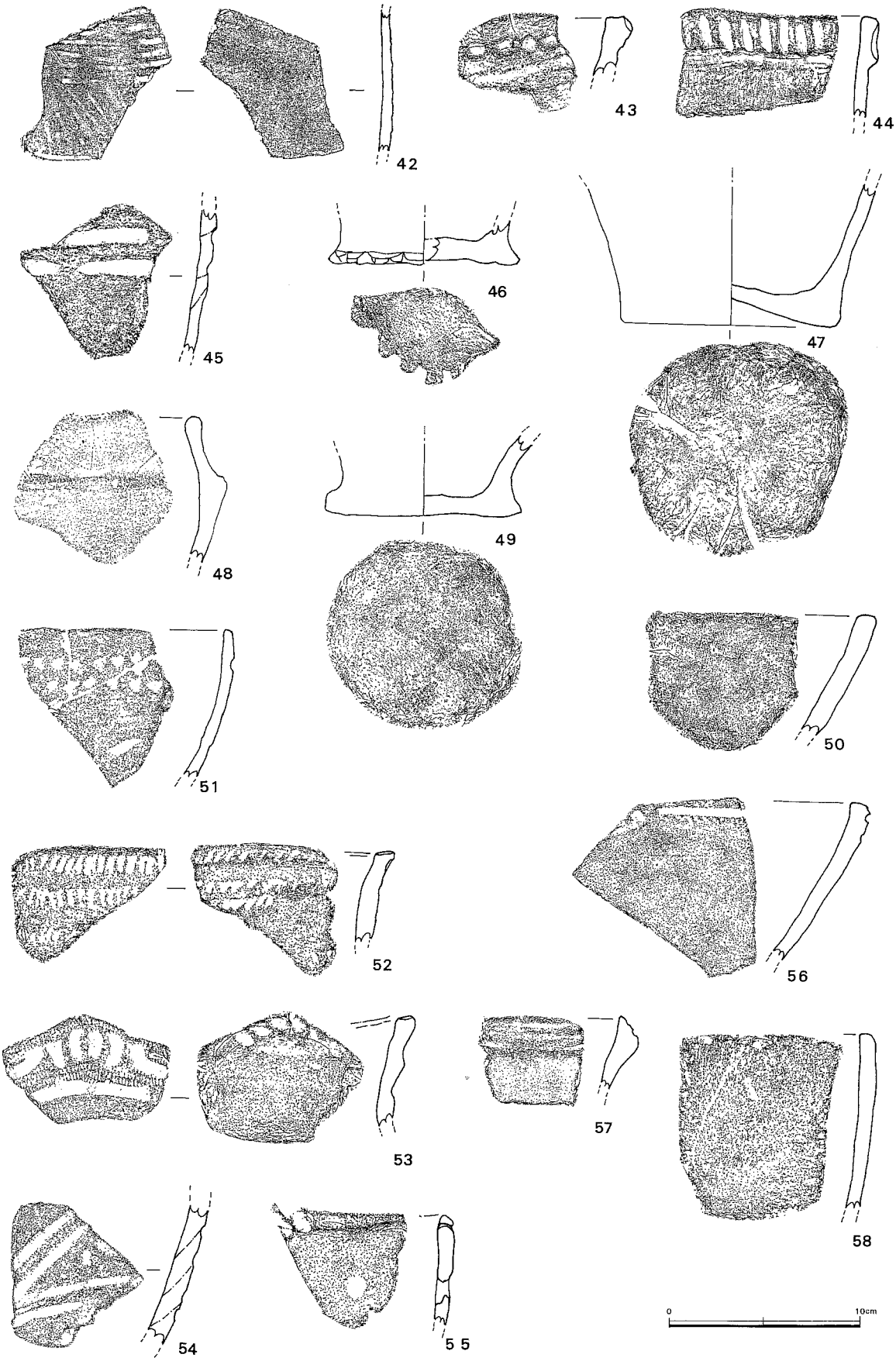


第20図　4区出土土器①

6㎜程度で比較的薄く作り上げている。色調は外面が茶灰色、内面は黄灰色を呈する。52は器面がざらつき刺突連続半管形の文様を外面に3段付す。口唇部に刻みの連続を内面の口縁下に二段の縦長刺突を横に連続させている。器形は口縁部で外反する御手洗A式土器。色調は外面が暗茶灰色で内面は暗黄灰色。53は波状口縁をなし、口唇部に刻みを入れる。口縁以下は押点と凹線を組み合わせ、間を方形列点（3㎜×2㎜）で埋めている。54は滑石の混入なし。沈線による文様が横位に2本と斜位に2本描く縄文時代後期の土器。色調は内外面ともに灰黄色。55は滑石の混入なし。穿孔のある山形口縁の土器片で、口縁部に刻みと突起を付している。器面はざらつき鉱物粒（0.5～1㎜）が目立つ。56は縄文時代後期の西平式土器。口縁端部から沈線を描き、沈線の両上下は磨消縄文を付ける。「,」状の沈線が正面左に見える。色調は外面が明黄色で内面は灰黄色を呈する。57は滑石の混入なし。口縁部に浅い沈線が3本巡り器面はざらつく。色調は内外面ともに暗黄色を呈する。58は結晶片岩粒（1㎜以下）が胎土に混入するが、滑石は混入しない。僅かに条痕が器面の内外面に残る。色調は、内外面ともに暗茶黒色を呈する。59は滑石の混入なし。色調は外面が淡黄灰色で内面は暗黄灰色を呈する。60は滑石の混入なし。器面の色調は内外面ともに灰白色で、器面は風化してざらつく。底部の径は9.0㎝を測る。61は滑石の混入なし。やや上底気味の底部。内面に条痕成形の一部が残る。色調は、外面が淡黄灰色で内面は灰黄色を呈する。62は滑石の混入なし。器面の外面がざらつき、色調は、内外面ともに灰黒黄色。底径は最大12.1㎝を測る。

5区出土土器（第22図・図版8）

63は滑石混入の曽畑式土器で、口唇部に浅い刻み目を付す。口縁部に3本の沈線を引き以下に山形と横線で文様を構成している。また、内面に一本の沈線を引いて山形の口縁としている。色調は外面が黒茶色で内面は暗灰茶色を呈する。64は滑石混入の並木式土器片。口唇部に刻みを付け口縁部に刺突文を付け以下は条痕をナデ潰し滑らかである。内面も条痕成形をナデ潰して滑らにしている。色調は外面が黒茶色で内面は鈍い銀黒色を呈する。65は滑石混入の並木式土器。口唇部を平坦にし、胴部で施文に使用した工具を口唇部に連続刺突する。口縁部から胴部の文様は刺突列点を連続させて、迷路状のジグザグ文様を付けている。器形は直線的に延びた口縁の深鉢となる。66は滑石混入の土器。幅3.2㎝の帯状の粘土を口縁部に貼り付けて、工具による刺突列点を付けている。内面は条痕成形をさらにナデて滑らかにしている。色調は、外面が暗赤褐色で内面は暗茶色を呈している。67は滑石混入土器。口唇部を指による押圧によって波状となす。また口縁部以下を指による列点を付ける。色調は、内外面ともに銀茶褐色を呈する。68は紐穴のある滑石混入土器。色調は外面が鈍い黒茶銀で内面は鈍い茶銀色を呈する。69は滑石混入の底部土器。底部は上底となり、中央部の厚さが10㎜ある。底部の外面には、鯨の脊椎状の凹凸の文様が見られる。内面は滑らかに成形されている。色調は、外面が黄灰色で内面の底は黒色で側面は暗赤灰色を呈する。70は滑石混入の土器。底部径は11.7㎝で平坦な底部で色調は、内外面ともに灰茶色を呈する。71は滑石混入のミニチュア土器で底部径は6.2㎝を測る。色調は内外面ともに鈍い銀色を呈する。72は滑石混入の底部土器。底部は、高台を作出したような上底としている。外面底部は条痕成形後に器面を滑らかにしている。色調は内外面ともに暗灰色を呈する。73は滑石混入の無文土器。器形は内湾し、口唇部に丸味を持つ。色調は内外面とも赤褐色を呈する。74は滑石の混入なし。口唇部に刻みを付け、口縁部が外反気味となる。色調は、外面が明茶色で内面は黒色を呈する。75は滑石の混入なし。平坦な底部をなすが、器面はざらざらしている。

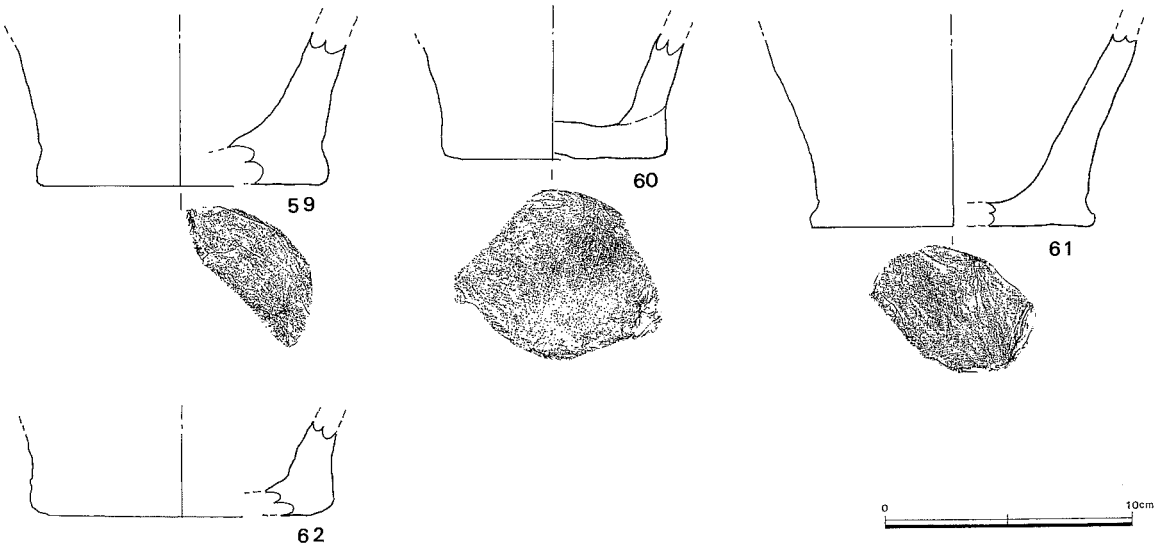


第20図　4区出土土器①

色調は内外面ともに淡黄色を呈する。

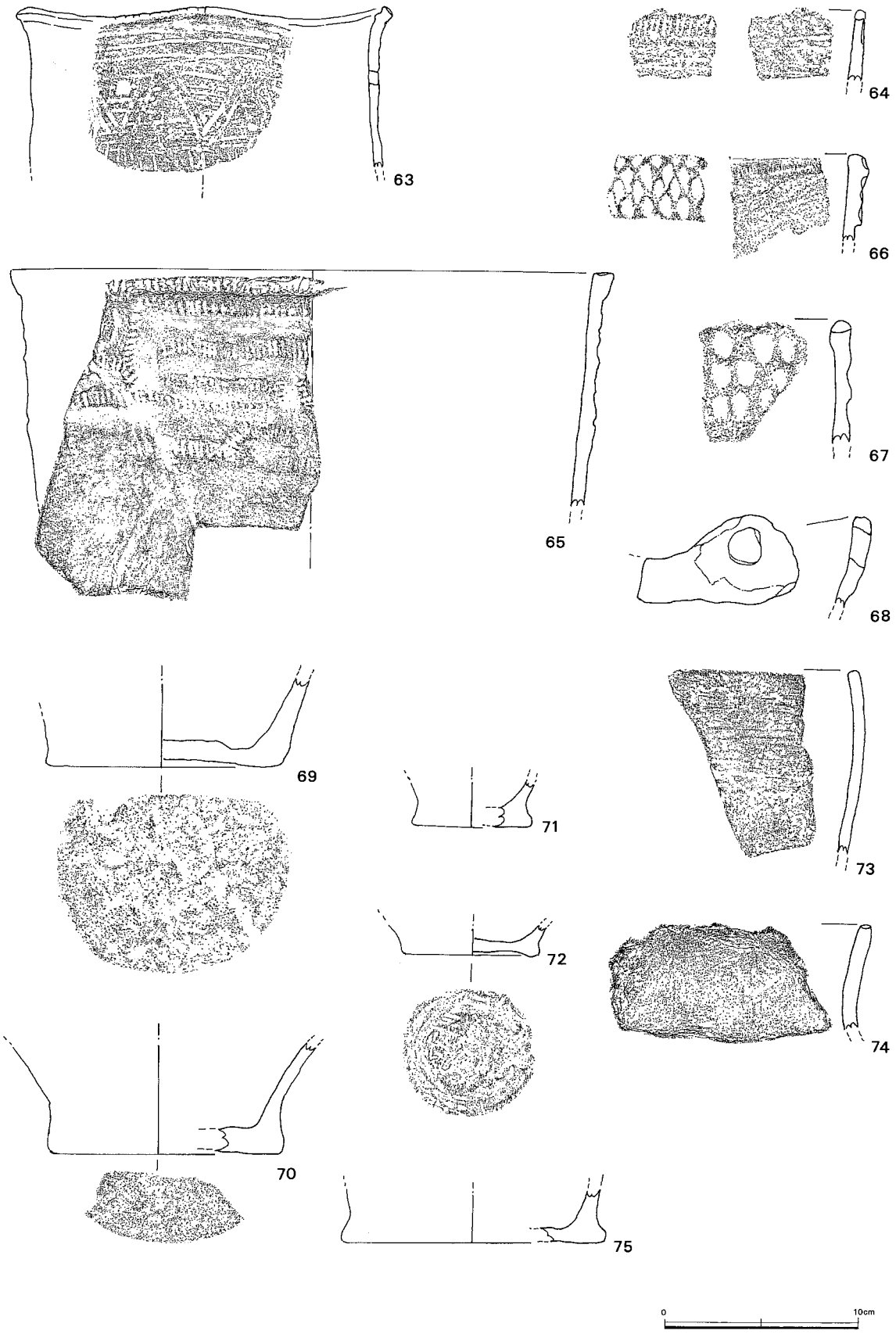
1区～5区のベルト層出土土器（第23図～第26図・図版9、10、11）

76は滑石を混入しない曽畑式土器。棒状工具ではっきりとした沈線（幅2㎜）を描く。色調は、外面が暗茶黄色で内面は明黄色を呈する。77は土器に滑石が若干混入する。口縁部に沈線を2本引き、間を刺突具で横位に連続した文様を付ける。さらに下部に同様の刺突列を配する。色調は、茶褐色の外面で内面は灰黄色、口縁部の周辺に滑石と結晶片岩の細粒が多く入る。78は滑石の混入なし。口縁部の二段に沈線を引いた上から円形工具で等間隔に連続刺突し、文様を付けている。色調は内外面とも煤の付着で黒色となっている。79は北久根山式土器で滑石の混入はなし。沈線の区画に長方形（幅1㎜）の刺突と円形（1.5㎜）の刺突を配している。80は滑石の混入なし。色調は、内外面ともに黄灰色で表面に細かいヒビが入る。81は滑石を混入した深鉢形土器。器形は口縁部でやや外反し、口唇部に突起を付している。色調は、内外面ともに灰黒色を呈する。82は滑石混入の土器。工具による刻みを付け、口唇部と口縁部に斜位（長さ1.4㎝×幅3㎜）に鋭利な刻みを入れている。器面は篦状工

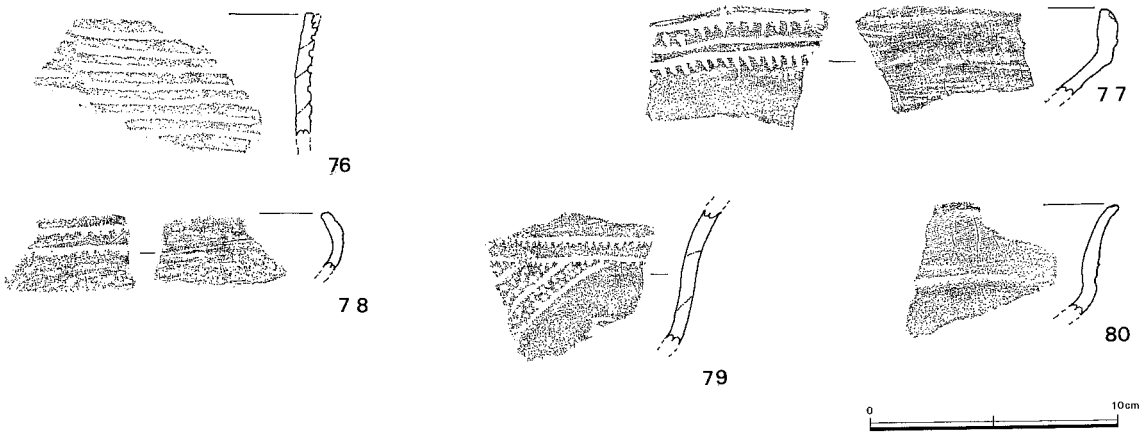


第21図　4区出土土器②

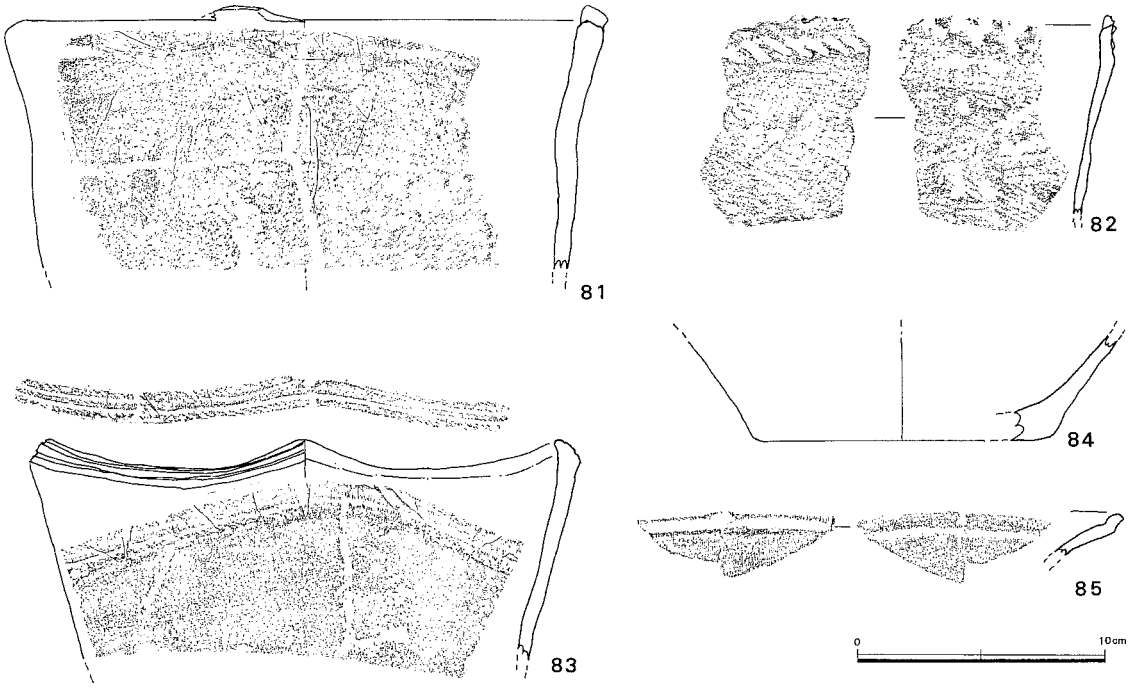
具で器面を成形している。色調は、外面が黒色で内面は灰茶色を呈している。83は口唇部に2本の沈線を配し、その間に磨消縄文を付す。色調は、外面が茶褐色で内面は黒色を呈する。84は滑石混入の底部。器面の風化が著しい。器面の色調は内外面ともに黒色を呈する。85は黒色磨研土器。色調は灰色を呈した緻密な粘土を使用している。条痕のある土器で滑石は含まない。条痕は外面は縦に入れ、内面は横位の条痕成形を行っている。色調は、黒茶色で内面は薄茶色となっている。86は内外面に条痕を残す。縄文時代後期の土器。87は滑石混入の土器。口唇部を波状に作り、口縁部は直線（3.2㎜×8㎜）で縦位の凹線の連続と横位の凹線を二段とし、内面も凹みを付けている。胴部は、条痕で成形後に潰しを行い滑らにしている。内面も浅く縦位の凹線を描く。88は滑石混入の底部。底部の外面に鯨の脊椎の痕跡がない。色調は内外面とも明茶渇色を呈する。89は円盤貼り付けの底部で中心部が上底となる滑石混入の土器。底部径は10.3㎝を測る。色調は、内外面ともに黒色を呈する。90は滑石混入の底部。底部中央部が上底状となる。色調は、外面が茶黒色で内面は黒色を呈する。91は北久根山式土器。滑石の混入はない。口縁部に粘土帯を貼り付けてその上に2本沈線を付け、間に円形の刺



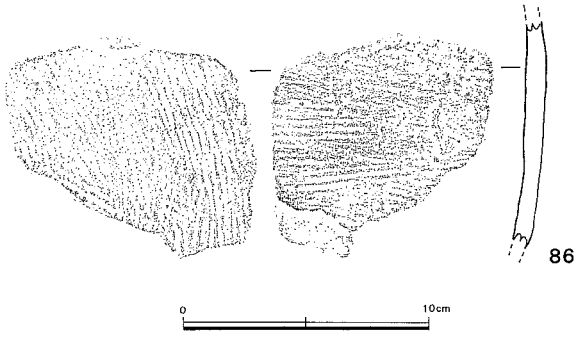
第22図　5区出土土器



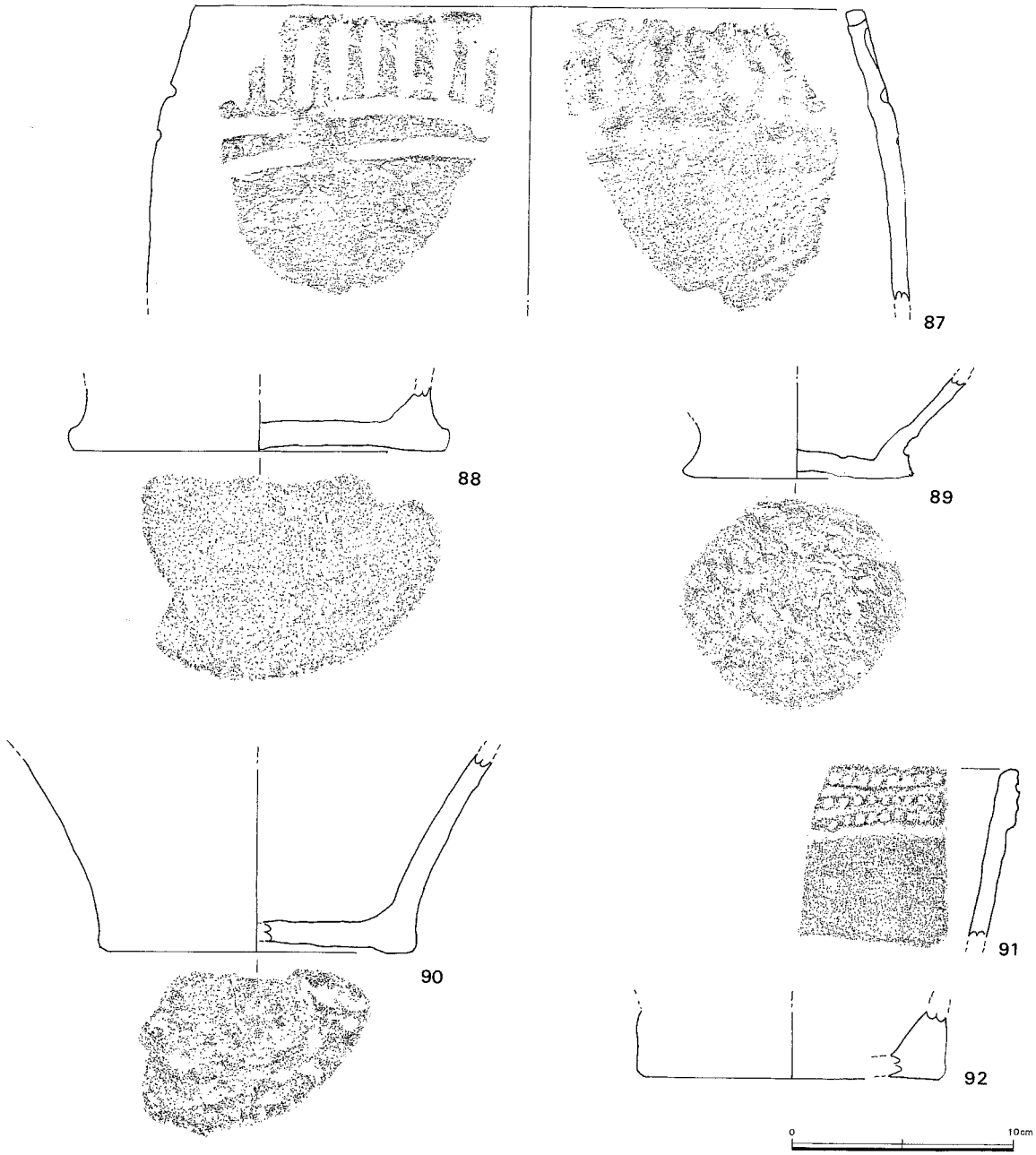
第23図　1区・2区ベルト層出土土器



第24図　2区・3区ベルト層出土土器



第25図　3区・4区ベルト層出土土器

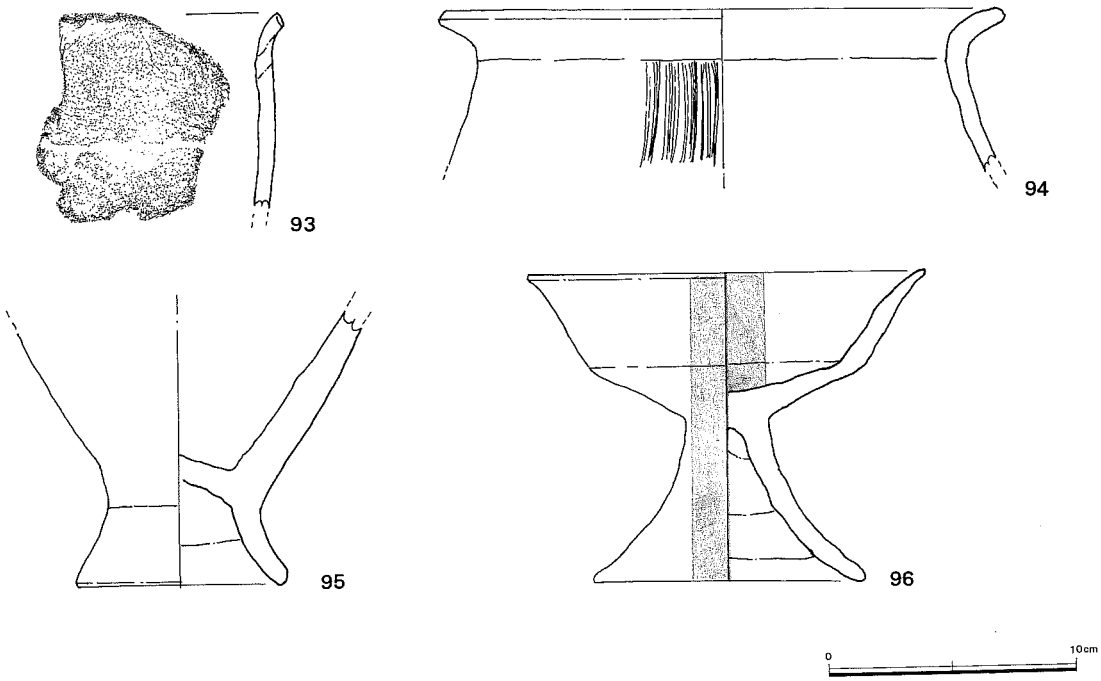


第26図　4区・5区ベルト層出土土器

突列点を横位に連続させる。口唇部は丸味を持った形で直線的に外反する。色調は内外面ともに黒色を呈し、器面がざらつく。92は滑石の混入のない底部。灰黄色を呈している。

その他の土器（第27図・図版11）

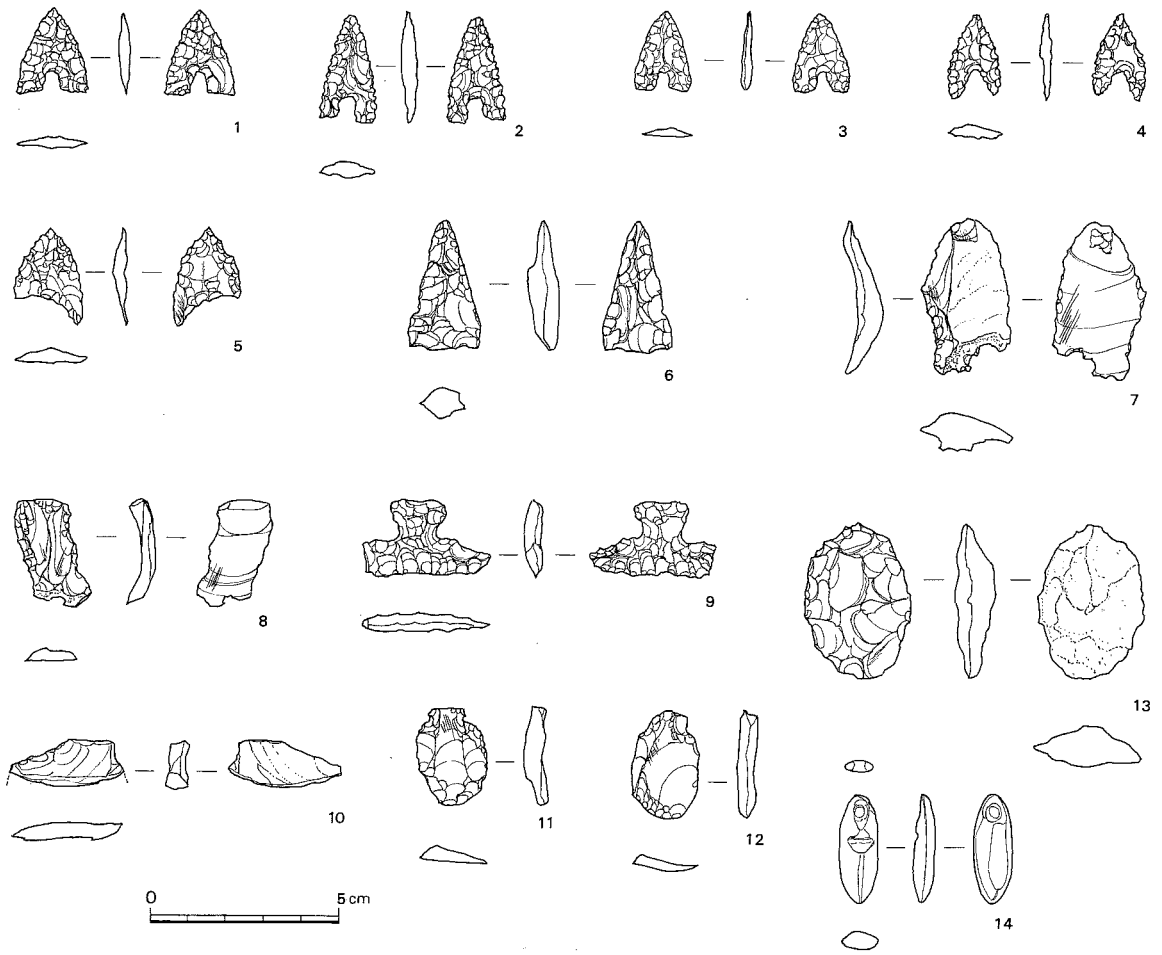
93は弥生時代前期の土器。口縁部が外反し、口唇部に刻みをつけ、胴部は刷毛目が僅かに残る。94は口縁部が大きく外反する弥生時代後期の土器。刷毛目が頸部以下に残る。95は台付甕で弥生時代後期の土器。96は1区の3層から出土の土師器の高坏。器形は、脚の踏ん張りがなく坏からの流れで、裾部へ「ハ」の字の脚となる。坏は胴部で屈曲し口縁部へ移行する。口唇部は丸く納める。色調は、レンガ色の赤褐色の内面で外面は茶色味の強い赤褐色を呈する。胎土は緻密な粘土を使用し、脚部の内面は篦削り調整を行う。6世紀末の土師器と考えられる。



第27図　その他の土器

1区出土の石器（第28図・図版12）

1は石鏃でハリ質安山岩の石鏃で灰色がかった暗青色を呈している。両縁から細かな剥離を中央部へ向けて繰り返し行う。正裏面ともに同様の整形で断面凸レンズ状をなす。脚端を平坦な作りとしている。2は石鏃。身を長くしたハリ質安山岩の石鏃で両側縁から細かい剥離を中央へ向かって繰り返し行う。正裏面ともに同様の整形を行う。断面凸レンズ状を呈する。脚端を平坦な作りとしている。3はハリ質安山岩の石鏃。黒味の濃い青色。両側縁から剥離し、中央部へ向けて行う。凸レンズ状の断面を意識して作出している。脚端は平坦な作りにしている。4は石鏃。灰色の濃い黒曜石。両側縁から調整剥離を行う。裏面には一部主要剥離面が残る。脚は先端部を尖らせる。5は石鏃。黒曜石の正面の左脚を欠損する。整形剥離を周縁部に丁寧に行う。裏面は主要剥離面を残す。6は石鏃。白色の粘板岩を使用し、裏面の整形は右上から斜めに中央部へ向かって剥離し、形を整える。脚を有しない平基式。7は使用痕のある剝片。黒曜石の縦長剝片の左側縁に調整剥離を施して使用する。8は黒曜石製の使用痕ある剝片。縦長剝片を利用して右側縁に整形剥離を施して使用する。9は石匙。ハリ質安山岩で灰色がかった青色を呈する。小形の石匙で両面とも刃部の作出をし、下部から上部へ細かく剥離を繰り返している。摘み部の両端より抉りを入れ、上部からさらに形を整える剥離を施している。10は石匙片。ハリ質安山岩の欠損品で石匙の摘み部と体部の付近。肩の部分に整形剥離が認められる。11は黒曜石の石匙。縦長剝片の端部に抉りを入れて、縦長の石匙を形作る。正面の右側縁に調整剥離を行う。表面は主要剥離面を大きく残す。12は石匙で縦長剝片の黒曜石を使用。正面の右側縁を抉り、左側縁は紐の掛かりを確保するためにだけわずかな剥離で終えている。裏面は主要剥離面を残す。13は石銛状の石器。サヌカイト製で上部を尖らせるために細かな調整を正面行う。裏面は自然面のままとしている。14は大珠。緑色を呈した蛇紋岩か。上部端の厚さ2㎜程の部分に径が3㎜程の穴を開けている。正面の中央の穴の下に線状の彫り込みを入れている。形状は、鰹節状を呈し、中央

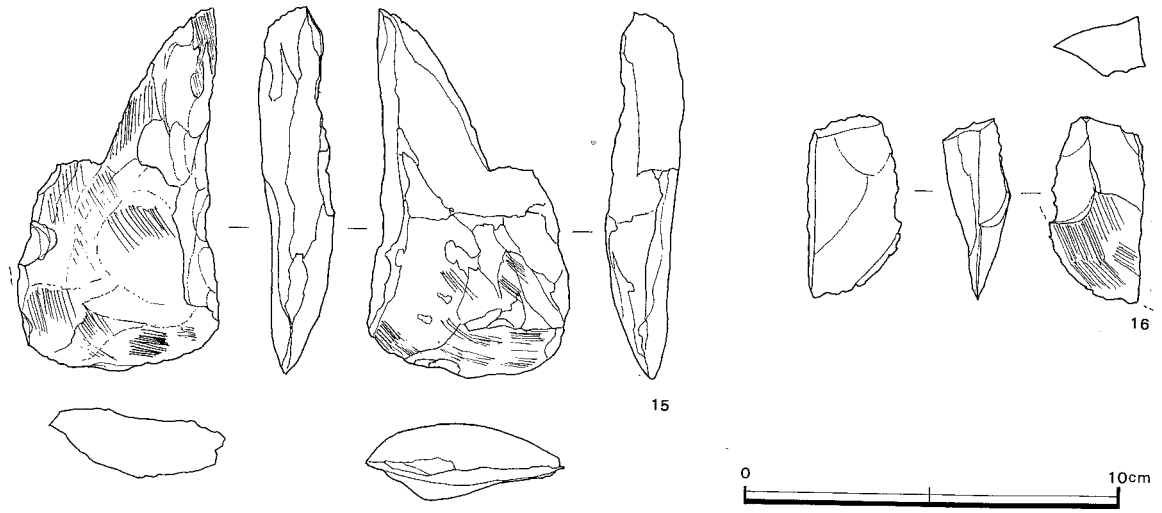


第28図　1区出土の石器

部に稜を持ち断面丸味を帯びた三角形状をなす。

2区出土石器（第29図・図版12）

15は蛇紋岩製の磨製石斧。刃部を両側縁から研ぎだしている。打撃整形後に全面を研ぎだしているが、側縁部には打撃調整が残されている。16は硬質安山岩の磨製石斧。刃部付近のみが残存する。表



第29図　2区出土の石器

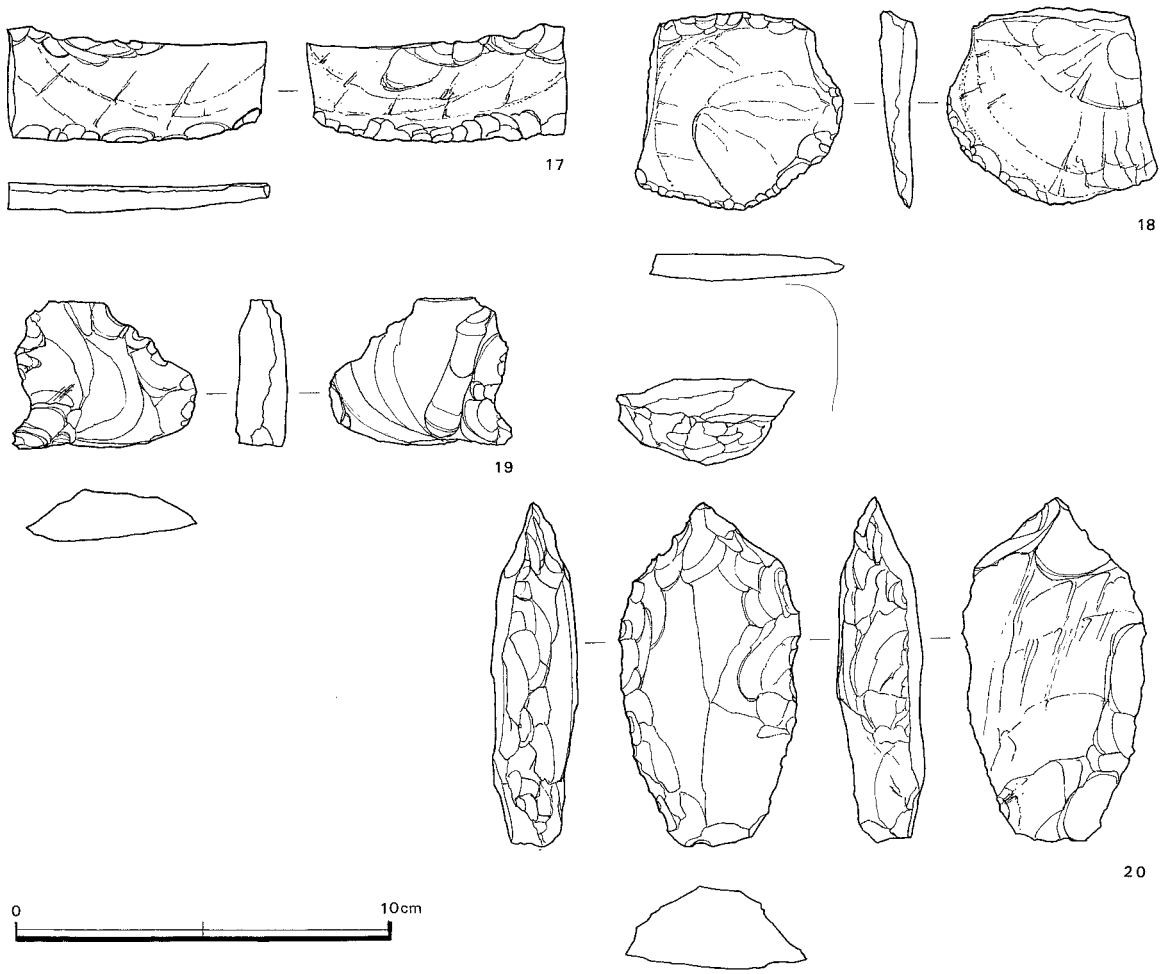
面は良く研ぎだされている。

3区出土石器（第30図・図版12）

17はサヌカイト製の石匙。横長剥片を利用する。刃部の形成は細かく下端を両面とも整形する。上部は正面左側縁と裏面右側縁に数回打撃を加えているが欠損しているため全形は不明。18は半円形のサヌカイト製スクレイパー。右側縁から下部にかけてリタッチを行う。正面の左半分は欠損する。19はハリ質安山岩のスクレイパーで両側縁の正面から剥離を行う。裏面は主要剥離面を残す。20はサヌカイト製の石鋸。大きな剥離で形を形成し、その後さらに周縁を調整剥離し先端を尖らせる。裏面は主要剥離面を残す。

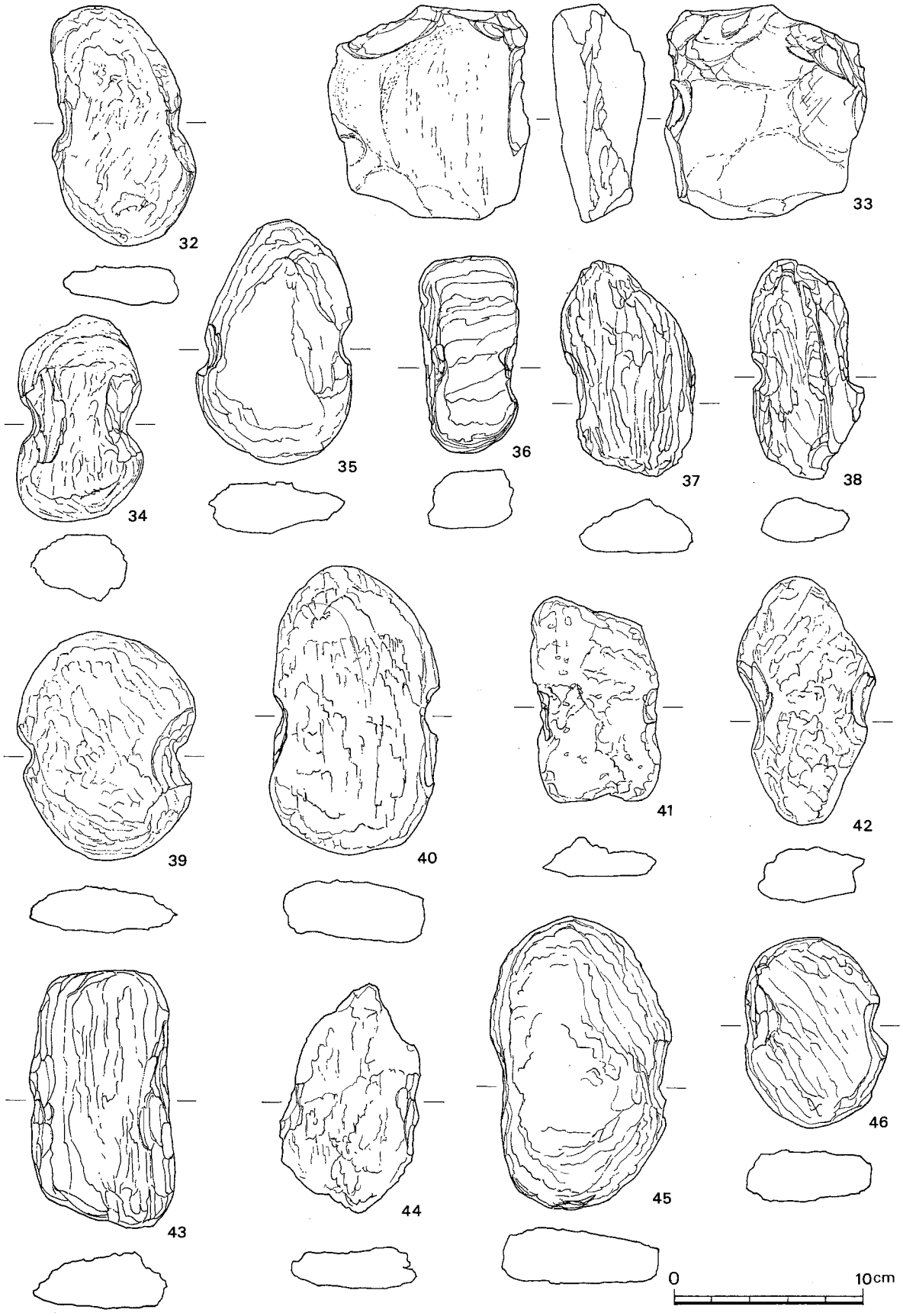
4区出土石器（第31図・図版12）

21はサヌカイト製の石鋸。正面の側縁を剥離し、裏面は中央部に平坦な自然面を残している。22は黒曜石製の剥片石器。正面の上部に打撃を加えて、裏面は主要剥離面を残す。右側縁に使用痕が残る。23はハリ質安山岩製の使用痕ある剥片。正面の両側縁部に浅い抉りを入れた縦長剥片を使用する。24は黒曜石製の使用痕ある剥片。縦長剥片の正面の右側縁に使用痕が残る。裏面は主要剥離面を残す。25は黒曜石製の使用痕ある剥片。縦長剥片の正面右側縁に使用痕が残る。裏面は主要剥離面を残す。26はサヌカイト製の石鏃。いびつな形状をしている。先端は鋭く尖らせているが、正面の左側縁体部

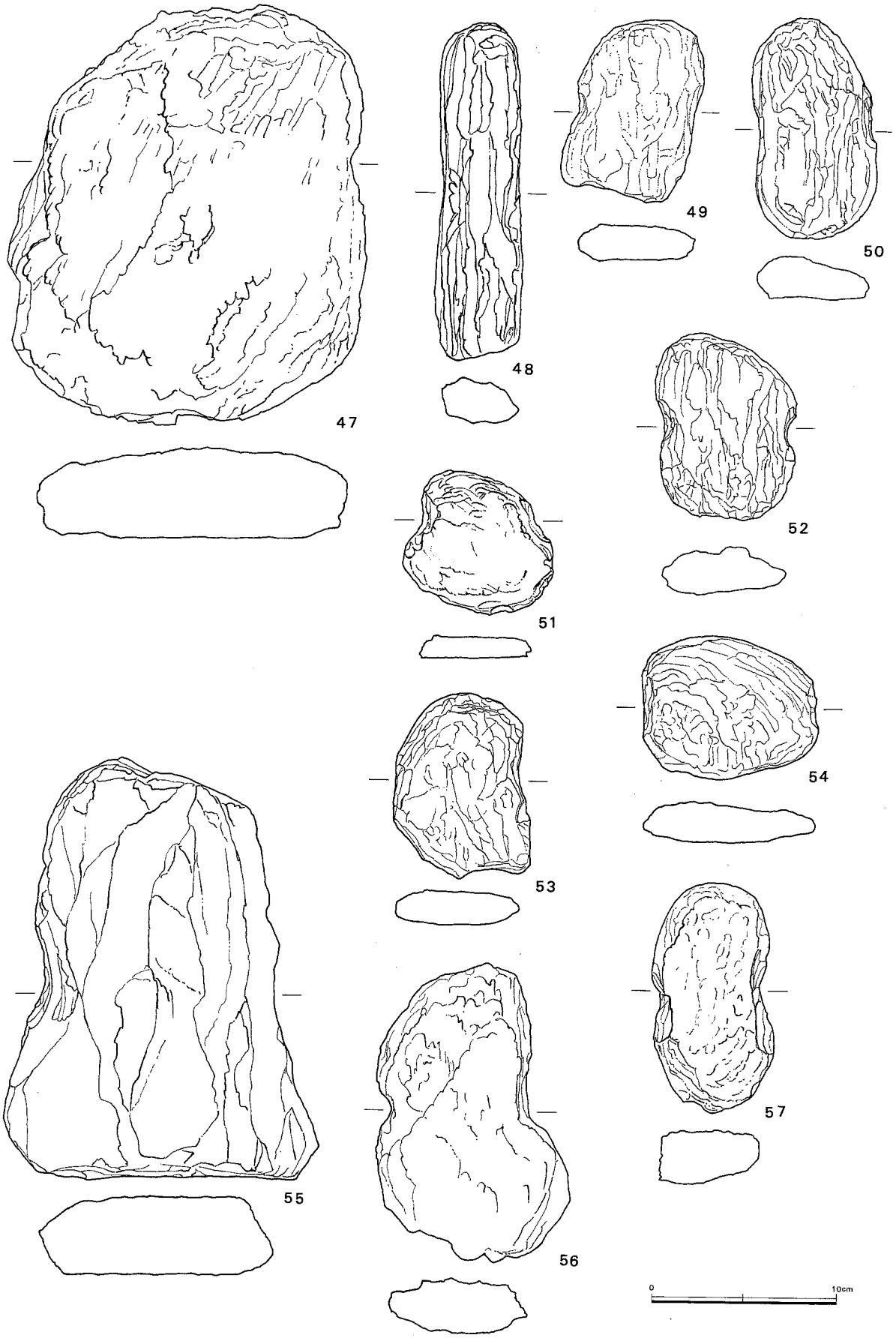


第30図　3区出土の石器

第31図　4区出土の石器



第32図　1区～5区層出土石器①



第33図　1区～5区層出土石器②

が抉れた形をなし、短い脚で右脚は欠損する。27は黒曜石製の石鏃。両脚を欠損した幅広の石鏃。正面は中央部へ向かって細かい剥離を施し、裏面は主要剥離を残すが、縁辺は剥離を行っている。28は黒曜石製の石核。正面の左側縁から打撃で表皮を除去し、裏面は下端部から寸詰まりの剥片を２枚剥ぎ取っている。29は蛇紋岩製の石斧。刃部を欠損する石斧。風化が著しいものの、正面、裏面に僅かに研磨の痕が残存する。30は黒曜石製の使用痕ある剥片。断面三角形の縦長剥片の右側縁に使用痕が残存する。裏面は主要剥離面を残す。31は黒曜石製の使用痕ある剥片。縦長剥片の正面左側縁に使用痕が残る。裏面は主要剥離面残す。

１区～５区層出土石器（第32、33図・図版13、14）

34から57までは全て礫石錘を掲載している。特色として結晶片岩を使用しているが第32図41のみ。安山岩を使用する。32は結晶片岩製の礫石錘Ⅰ型（短軸両端打欠）両側縁の中央部を打欠する。長さ12.7cm、厚さ２cm、幅7.6cm、重量265ｇ、打欠幅左2.1cm、右1.7cmを測る。33は玄武岩製の礫器で正面の右側縁に刃部を形成する。打撃調整痕は刃部と背部に若干認められる程度である。34は短軸の両端を打欠し抉りを深くした礫石錘Ⅰ型。長さ11cm、厚さ3.5cm、幅6.7cm、重量320ｇ、打欠幅左2.0cm、右2.5cm。35は短軸両端を打欠する礫石錘Ⅰ型。長さ12.9cm、厚さ2.7cm、幅8.2cm、重量350ｇ打欠幅左1.8cm、右2.4cm。36は礫石錘Ⅰ型。長さ10.45cm、厚さ３cm、幅5.25cm、重量270ｇ、打欠幅左2.1cm、右3.4cm。37は礫石錘Ⅰ型。打撃部位は正面左のみ。長さ11.5cm、厚さ2.8cm、幅7.1cm、重量225ｇ、打欠幅左3.5cm。38は礫石錘Ⅰ型。長さ11.7cm、厚さ2.35cm、幅６cm、重量185ｇ、打欠幅左1.6cm、右1.7cmを測る。39は礫石錘Ⅰ型。長さ12.1cm、厚さ2.5cm、幅9.3cm、重量355ｇ、打欠幅左2.4cm、右3.2cm。40は礫石錘Ⅰ型。長さ15.1cm、厚さ3.2cm、幅8.95cm、重量600ｇ、打欠幅左4.5cm、右5.2cm。41は安産岩製の礫石錘Ⅰ型。出土品で唯一石材に安山岩を使用している。長さ1.9cm、厚さ2.1cm、幅6.9cm、重量180ｇ、打欠幅左4.8cm、右1.9cm。42は礫石錘Ⅰ型。長さ13.1cm、幅7.2cm、厚さ2.8cm、重量255ｇ、打欠幅左4.2cm、右3.2cm。43は礫石錘Ⅰ型。長さ13.7cm、厚さ３cm、幅7.8cm、重量478ｇ、打欠幅左2.5cm、右9.1cm。44は礫石錘Ⅰ型。長さ12.1cm、厚さ2.2cm、幅7.3cm、重量210ｇ、打欠幅左３cm、右4.1cm。45は礫石錘Ⅰ型。長さ15.45cm、厚さ2.9cm、幅9.6cm、重量580ｇ、打欠幅左3.5cm、右3.3cm。46は礫石錘Ⅰ型。長さ10cm、厚さ2.75cm、幅7.5cm、重量310ｇ、打欠幅左1.2cm、右2.2cm。47は大型の礫石錘Ⅰ型。長さ22.5cm、幅19cm、厚さ4.9cm、重量３kg、打欠幅左6.7cm、右4.7cm。48は棒状礫石錘Ⅰ型。短軸の中央部に両端から敲打し抉りを付ける。49は礫石錘Ⅰ型。長さ9.7cm、幅7.7cm、厚さ2.0cm、重量197.5ｇ、打欠幅左2.8cm、右2.7cmを測る。50は礫石錘Ⅰ型。長さ11.75cm、幅6.8cm、厚さ2.3cm、重量230ｇ、打欠幅左4.1cm、右2.6cm。51は礫石錘Ⅱ型（長軸両端打欠）幅8.1cm、長さ7.25cm、厚さ1.2cm、重量95ｇ、打欠幅左3.4cm、右2.0cm。52は礫石錘Ⅰ型。長さ10cm、幅7.6cm、厚さ2.6cm、重量237.5ｇ、打欠幅左3.8cm、右2.6cm。53は礫石錘Ⅰ型。長さ9.95cm、厚さ1.9cm、幅7.4cm、重量195ｇ、打欠幅左2.8cm、右4.6cm。54は礫石錘Ⅱ型。幅9.5cm、厚さ2.2cm、長さ7.2cm、重量217.5ｇ、打欠幅左3.5cm、右2.4cm。55は大型の礫石錘Ⅰ型。正面左と正面右に大きな打撃を加える。比較的に両面ともに平坦である。長さ22.6cm、厚さ4.25cm、幅16.9cm、重量2.5kg、打欠幅左6.3cm、右4.9cm。56は礫石錘Ⅰ型。長さ16.05cm、厚さ2.95cm、幅10.4cm、重量560ｇ、打欠幅左2.6cm、右4.7cm。57は礫石錘Ⅰ型。長さ12.4cm、幅6.6cm、厚さ2.9cm、重量325ｇ、打欠幅左4.0cm、右7.7cm。以上。

6．まとめ

土層について

堆積状況は、海岸部の砂丘上に立地する地形で、古墳時代末から縄文時代前期の遺物がある程度は時代を追って追跡できる堆積であった。今回、縄文時代の前期の層を７層②に確認できたことは、大きな成果として挙げられる。これに対し、滑石混入土器の縄文時代中期から縄文時代後期前葉へと移行する１区の６層で第17図８の阿高系土器と出水系土器が同一層から出土し、土層堆積が判然としな状況である。５層については、２区～５区において滑石を混入する上底の土器を含む縄文時代中期から縄文時代後期の遺物が出土している。４層については、縄文時代後期の北久山式土器、西平式土器を主体とする土器が出土している。

遺構について

径が１ｍ程度の集石（貯蔵穴）で土坑の深さ約25cmと集石の厚みが約30cmを測る。このような海岸に近い場所での貯蔵穴は壱岐市の名切遺跡[註1]がある。この遺跡では、縄文時代中期と晩期の所属時期とされる遺構が標高0.7m付近で営まれており、条件的にも同様な立地場所として位置けられる。構造については、遺構での説明のように礫が土坑中央部の中に向かって擂鉢状に落ち込んでいる状況であった。

土器について

本遺跡で時期的には縄文時代前期の曽畑式土器Ⅱ[註2]式土器が古い段階の土器形式として、７層②から出土している。これについで、６層～５層に何れも滑石を混入した轟C[註3]式系土器、並木式土器[註5]、阿高式土器[註6]、春日式土器[註4]（第18図24は貝殻条痕を施した、土器群。胴部から頸部へ外反し、口縁部は内湾したキャリパー状をなす）から縄文時代後期前葉の出水式土器[註7]が継続する。ただし、６層、５層で出土する遺物については時代別の分層は困難であった。さらに４層からは、縄文時代後期中葉の土器で、北久根山式[註8]（口縁部に施文帯を持ち、文様は短斜線文と綾杉文がある。鉢は、器面をよく研磨した精製土器がある。また、擬似縄文または、擬似縄文の上に曲線または屈折する直線文を施文する土器。）と西平式[註9]（縄文時代後期中頃で「く」の字形口縁の深鉢形土器で磨消縄文を付けた土器）が主体的に出土している。

石器について

石器の成果として、曽畑式土器に伴う石錘が挙げられる。この石錘は殆どが結晶片岩を利用したもので形式としては、短軸の両端を打欠したＩ型[註10]としているものである。また、長崎県内の海岸部に立地する遺跡でよく出土している礫器についても１点であるが出土している。石鏃については、縄文時代早期の特色である鍬形鏃があるが、この鍬形鏃から抉りが浅くなって、短い脚へと移行する段階を示す資料として第28図１・３があった。また、海岸部の特色ある石器として、石銛がある。この石器は、外洋の大型海獣を捕らえる石器として県内の遺跡では考えられている。内湾の大村湾において大型の海獣を捕らえるための道具とは考えにくく、猪を捕らえるための石器と考えられる。この他に石匙類、及び縦長剥片を利用した使用痕のある剥片が多数出土している。また４層からはライトグリー

第２表　土器出土一覧

図番号	出土地区	層位	時代	備考	図番号	出土地区	層位	時代	備考
第17図－１	１区	７層	縄文	KUR2001106-0167	第20図－49	４区	５層	縄文	KUR2001106-0484
第17図－２	１区	７層	〃	KUR2001106-0174	第20図－50	４区	４層	〃	KUR2001106-0275
第17図－３	１区	６層	〃	KUR2001106-0155	第20図－51	４区	５層	〃	KUR2001106-0461
第17図－４	１区	６層	〃	KUR2001106-0148	第20図－52	４区	５層	〃	KUR2001106-0376
第17図－５	１区	５層	〃	KUR2001106-0177	第20図－53	４区	５層	〃	KUR2001106-0474
第17図－６	１区	６層下部	〃	KUR2001106-0811	第20図－54	４区	５層	〃	KUR2001106-0444
第17図－７	１区	６層	〃	KUR2001106-0146	第20図－55	４区	４層	〃	KUR2001106-0264
第17図－８	１区	６層	〃	KUR2001106-0126	第20図－56	４区	５層	〃	KUR2001106-0340
第17図－９	１区	６層	〃	KUR2001106-0131	第20図－57	４区	５層	〃	KUR2001106-0348
第17図－10	１区	６層	〃	KUR2001106-0119	第20図－58	４区	５層	〃	KUR2001106-0412
第17図－11	１区	６層	〃	KUR2001106-0095	第21図－59	４区	５層	〃	KUR2001106-0523
第17図－12	１区	６層	〃	KUR2001106-0127	第21図－60	４区	５層	〃	KUR2001106-0375
第17図－13	１区	６層（中層）	〃	KUR2001106-0802	第21図－61	４区	４層	〃	KUR2001106-0545
第17図－14	１区	６層	〃	KUR2001106-0136	第21図－62	４区	５層	〃	KUR2001106-0405
第17図－15	１区	４層	〃	KUR2001106-0039	第22図－63	５区	７－③層	〃	KUR2001106-0777
第17図－16	１区	４層	〃	KUR2001106-0070	第22図－64	５区	５層	〃	KUR2001106-0640
第17図－17	１区	４層	〃	KUR2001106-0064	第22図－65	５区	７－③層	〃	KUR2001106-0736
第17図－18	１区	４層	〃	KUR2001106-0020	第22図－66	５区	７－③層	〃	KUR2001106-0738
第17図－19	１区	４層	〃	KUR2001106-0052	第22図－67	５区	５層	〃	KUR2001106-0706
第17図－20	１区	４層	〃	KUR2001106-0006	第22図－68	５区	５層	〃	KUR2001106-0666
第17図－21	１区	４層	〃	KUR2001106-0031	第22図－69	５区	５層	〃	KUR2001106-0587
第17図－22	１区	４層	〃	KUR2001106-0007	第22図－70	５区	５層	〃	KUR2001106-0672
第18図－23	２区	５層	〃	KUR2001106-0198	第22図－71	５区	５層	〃	KUR2001106-0672
第18図－24	２区	５層	〃	KUR2001106-0824	第22図－72	５区	５層	〃	KUR2001106-0618
第18図－25	２区	５層	〃	KUR2001106-0204	第22図－73	５区	５層	〃	KUR2001106-0705
第18図－26	２区	４層	〃	KUR2001106-0180	第22図－74	５区	５層	〃	KUR2001106-0668
第18図－27	２区	４層	〃	KUR2001106-0181	第22図－75	５区	５層	〃	KUR2001106-0595
第18図－28	２区	４層	〃	KUR2001106-0187	第23図－76	１～２区ベルト	６－①層	〃	KUR2001106-0866
第18図－29	２区	４層	〃	KUR2001106-0182	第23図－77	１～２区ベルト	６－①層	〃	KUR2001106-0867
第18図－30	２区	４層	〃	KUR2001106-0189	第23図－78	１～２区ベルト	６－①層	〃	KUR2001106-0867
第18図－31	２区	４層	〃	KUR2001106-0183	第23図－79	１～２区ベルト	６－①層	〃	KUR2001106-0867
第19図－32	３区	７層	〃	KUR2001106-0259	第23図－80	１～２区ベルト	６－①層	〃	KUR2001106-0866
第19図－33	３区	５層	〃	KUR2001106-0240	第24図－81	２～３区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-0873
第19図－34	３区	５層	〃	KUR2001106-0222	第24図－82	２～３区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-0873
第19図－35	３区	５層	〃	KUR2001106-0255	第24図－83	２～３区ベルト	５ｂ層	〃	KUR2001106-0872
第19図－36	３区	５層	〃	KUR2001106-0246	第24図－84	２～３区ベルト	５ｂ層	〃	KUR2001106-0872
第19図－37	３区	５層	〃	KUR2001106-0217	第24図－85	２～３区ベルト	５ｂ層	〃	KUR2001106-0872
第19図－38	３区	４層	〃	KUR2001106-0227	第25図－86	３～４区ベルト	５層	〃	KUR2001106-0879
第19図－39	３区	５層	〃	KUR2001106-0233	第26図－87	４～５区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-0895
第19図－40	３区	４層	〃	KUR2001106-0230	第26図－88	４～５区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-0895
第19図－41	３区	５層	〃	KUR2001106-0213	第26図－89	４～５区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-0895
第20図－42	４区	３層上面	〃	KUR2001106-0814	第26図－90	４～５区ベルト	５－③層	〃	KUR2001106-0893
第20図－43	４区	５層	〃	KUR2001106-0533	第26図－91	４～５区ベルト	５－②層	〃	KUR2001106-0890
第20図－44	４区	５層	〃	KUR2001106-0850	第26図－92	４～５区ベルト	５－②層	〃	KUR2001106-0890
第20図－45	４区	５層	〃	KUR2001106-0502	第27図－93	４区	５層（撹乱？）	弥生	KUR2001106-0415
第20図－46	４区	５層	〃	KUR2001106-0537	第27図－94	５区	５層（撹乱？）	〃	KUR2001106-0665
第20図－47	４区	４層	〃	KUR2001106-0264	第27図－95	３区	３層下部	〃	KUR2001106-0634
第20図－48	４区	排土表採	〃	KUR2001106-0913	第27図－96	１区	３層直上	古墳	KUR2001106-0791

ンの色をした大殊が出土している。この大殊の石材については、別府大学下村智教授より、含クロム雲母（岩）で縄文時代後期に所属する資料との教示を得た。

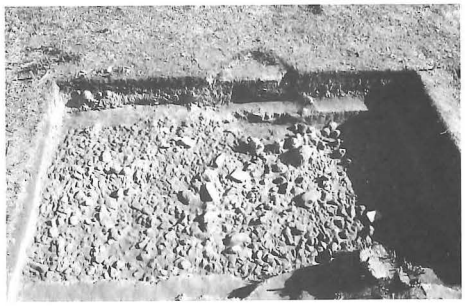
註文献＜註１『名切遺跡』長崎県文化財調査報告書　第71集　編集安楽勉・藤田和裕　長崎県教育委員会発行1985＞＜註２・６・７・８・９『日本土器事典』編大川清・鈴木公雄・工楽善通　雄山閣出版株式会社1998＞＜註３・４・５『縄文時代研究事典』編戸沢充則　株式会社東京堂出版1995＞＜註10『堂崎遺跡』長崎県文化財調査報告書　第58集編安楽勉「(2)礫石錘」町田利幸　長崎県教育委員会1982＞

第３表　石器出土一覧

図番号	出土地区	層位	時代	備考	図番号	出土地区	層位	時代	備考
第28図－１	１区	６層	縄文	KUR2001106-2040	第31図－30	４区	４層	縄文	KUR2001106-2118
第28図－２	１区	４層	〃	KUR2001106-2018	第31図－31	４区	４層	〃	KUR2001106-2110
第28図－３	１区	６層	〃	KUR2001106-2069	第32図－32	１区	６層	〃	KUR2001106-2066
第28図－４	１区	４層	〃	KUR2001106-2010	第32図－33	１区	６層	〃	KUR2001106-2052
第28図－５	１区	４層	〃	KUR2001106-2016	第32図－34	３区	７層	〃	KUR2001106-2109
第28図－６	１区	４ｂ層	〃	KUR2001106-2406	第32図－35	３区	７層	〃	KUR2001106-2107
第28図－７	１区	４層（礫層）	〃	KUR2001106-2413	第32図－36	３区	７層	〃	KUR2001106-2108
第28図－８	１区	４層（礫層）	〃	KUR2001106-2413	第32図－37	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2486
第28図－９	１区	６層	〃	KUR2001106-2046	第32図－38	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2486
第28図－10	１区	４層（礫層）	〃	KUR2001106-2413	第32図－39	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2486
第28図－11	１区	４層（礫層）	〃	KUR2001106-2414	第32図－40	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2487
第28図－12	１区	３層(黄色砂層)	〃	KUR2001106-2410	第32図－41	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2486
第28図－13	１区	４層	〃	KUR2001106-2014	第32図－42	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2486
第28図－14	１区	４層（礫層）	〃	KUR2001106-2413	第32図－43	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2486
第29図－15	２区	５層	〃	KUR2001106-2077	第32図－44	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2487
第29図－16	２区	５層	〃	KUR2001106-2074	第32図－45	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2478
第30図－17	３区	７層	〃	KUR2001106-2103	第32図－46	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2480
第30図－18	３区	７層	〃	KUR2001106-2104	第33図－47	３～４区ベルト	７－①層	〃	KUR2001106-2482
第30図－19	３区	７層	〃	KUR2001106-2099	第33図－48	４区	６層	〃	KUR2001106-2212
第30図－20	３区	５層	〃	KUR2001106-2083	第33図－49	４～５区ベルト	５－③層	〃	KUR2001106-2496
第31図－21	４区	７層	〃	KUR2001106-2219	第33図－50	４～５区ベルト	５－③層	〃	KUR2001106-2496
第31図－22	４区	６層	〃	KUR2001106-2216	第33図－51	４区	５層	〃	KUR2001106-2197
第31図－23	４区	５層	〃	KUR2001106-2173	第33図－52	４～５区ベルト	５－③層	〃	KUR2001106-2496
第31図－24	４区	５層	〃	KUR2001106-2245	第33図－53	４～５区ベルト	５－③層	〃	KUR2001106-2496
第31図－25	４区	５層	〃	KUR2001106-2242	第33図－54	４～５区ベルト	７－②層	〃	KUR2001106-2496
第31図－26	４区	５層	〃	KUR2001106-2159	第33図－55	５区	５層	〃	KUR2001106-2297
第31図－27	４区	５層	〃	KUR2001106-2259	第33図－56	排土表採		〃	KUR2001106-2519
第31図－28	４区	５層	〃	KUR2001106-2136	第33図－57	排土表採		〃	KUR2001106-2519
第31図－29	４区	５層	〃	KUR2001106-2144					

図　　版

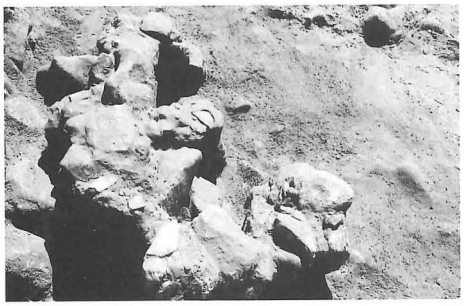
遺跡遠景



1 区礫層

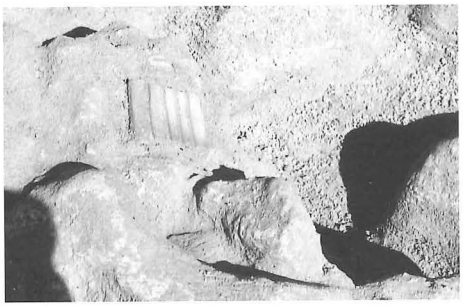
1 区遺物出土状況

1 区遺物出土状況



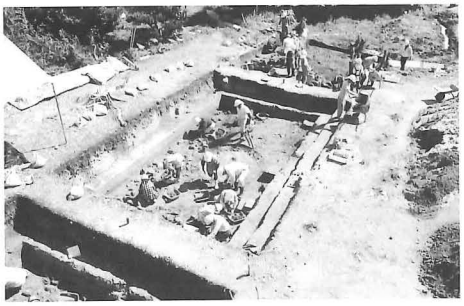
1 区遺物出土状況

1 区遺物出土状況

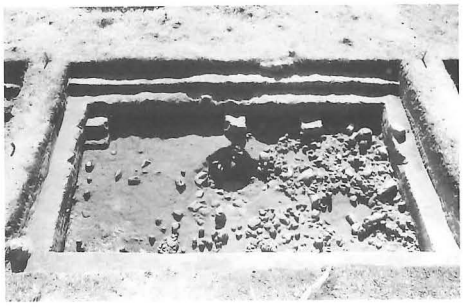


1 区遺物出土状況

1 区北壁



2 区・3 区調査風景

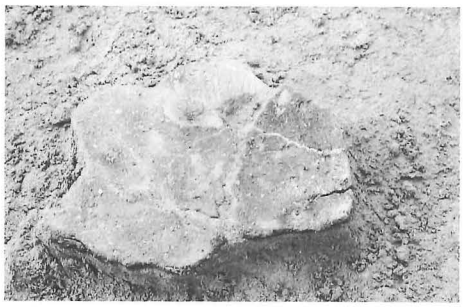


2 区礫層

図版 2

2 区 8 層

2 区北壁



2 区出土遺物

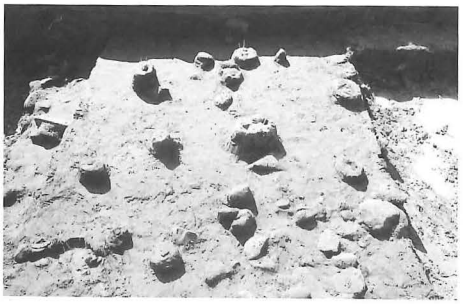
2 区・3 区調査風景

3 区北壁

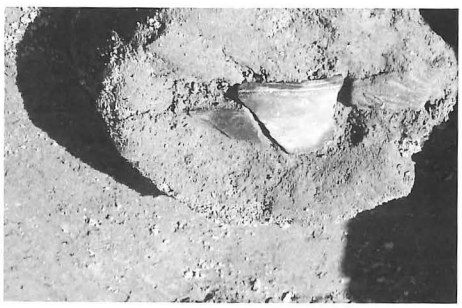
3 区出土遺物

3 区出土遺物

3 区出土遺物



2 区・3 区ベルト出土遺物



2 区・3 区ベルト出土遺物

調　査　②

4 区集石

4 区集石

4 区集石除去

3 区・4 区ベルト出土遺物

3 区・4 区ベルト出土遺物

3 区・4 区ベルト出土遺物

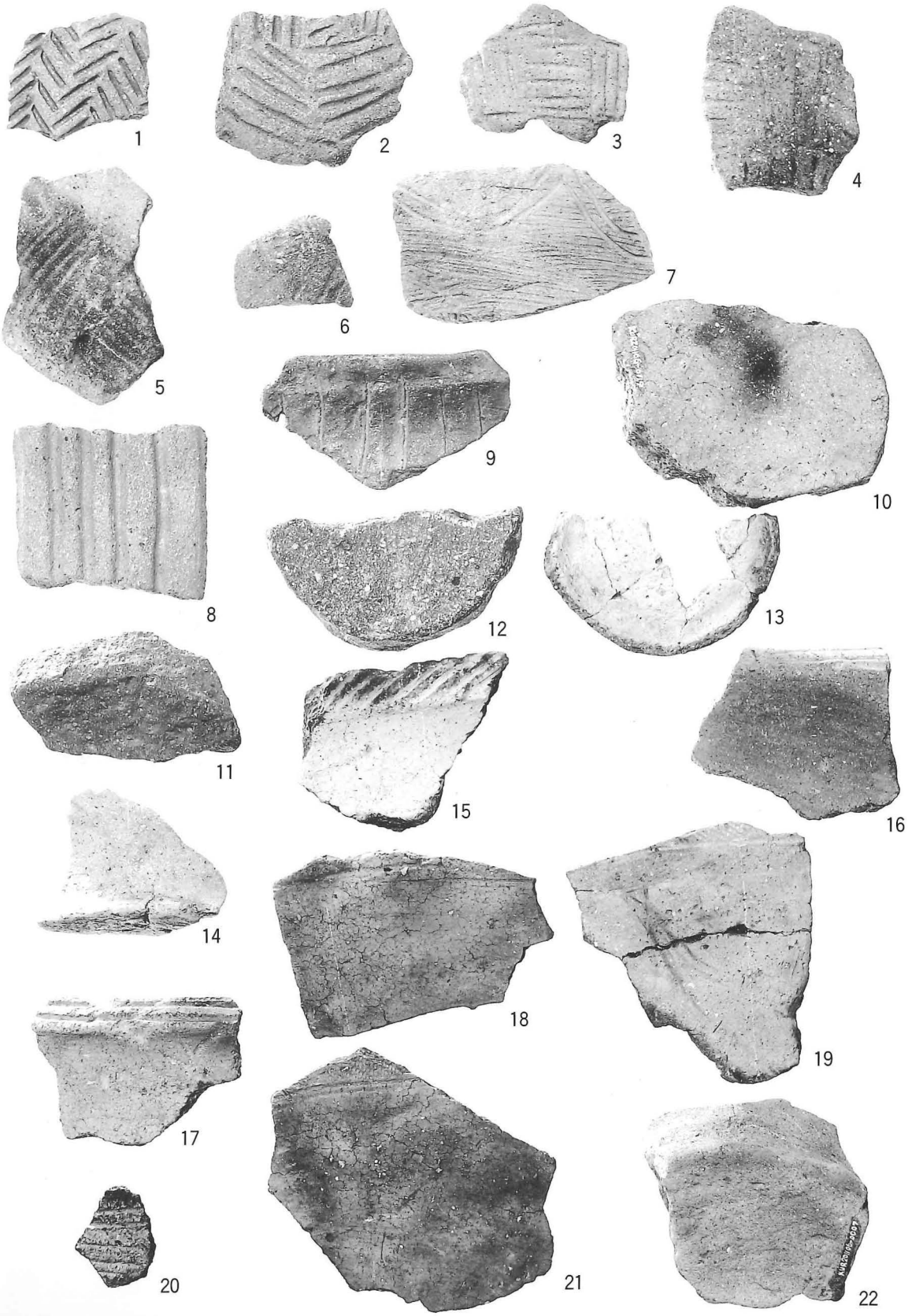
4 区北壁

4 区 8 層

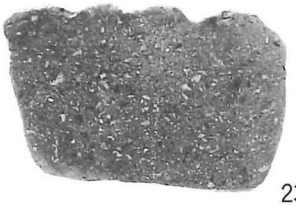
5 区西壁

5 区 8 層

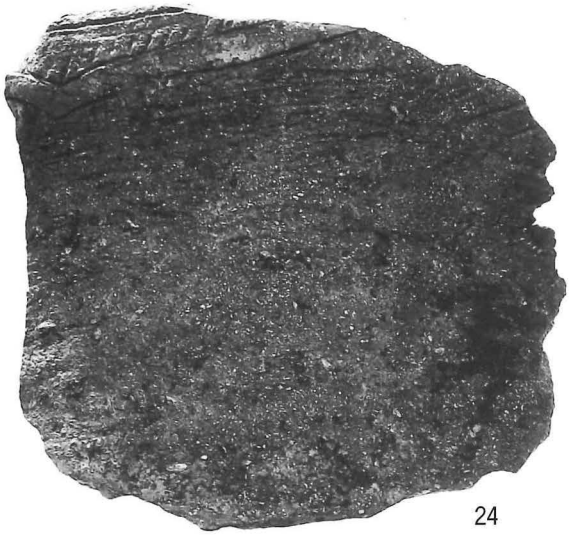
図版 4



1 区出土土器

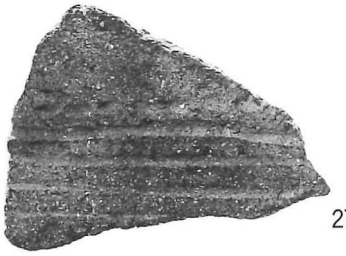

23

25

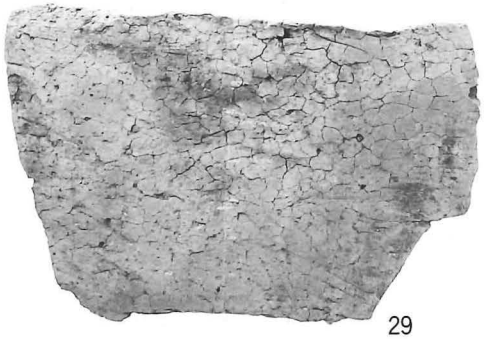

24

26

28


27

31

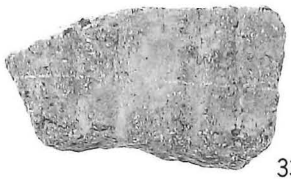

29

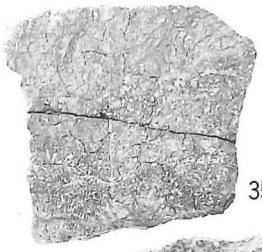
30

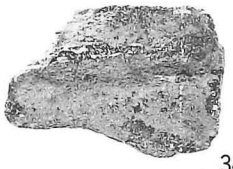
2 区出土土器

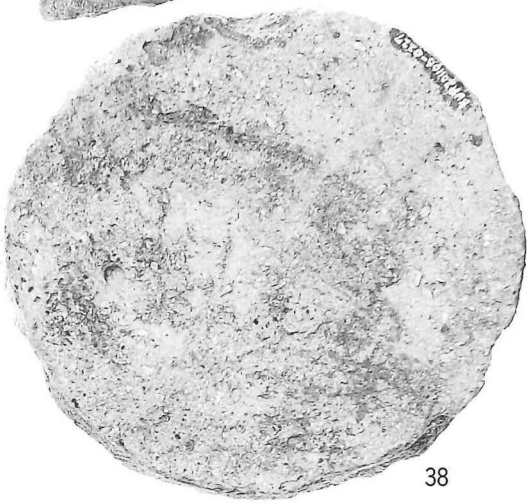
図版 6

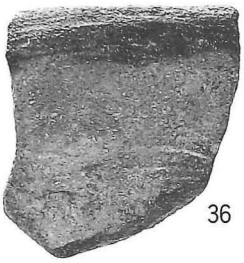
32


33

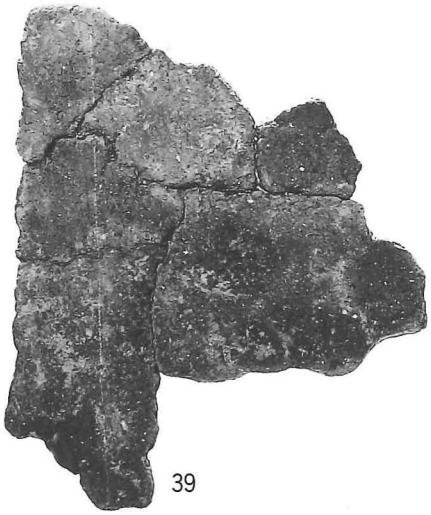

35


34


38


36

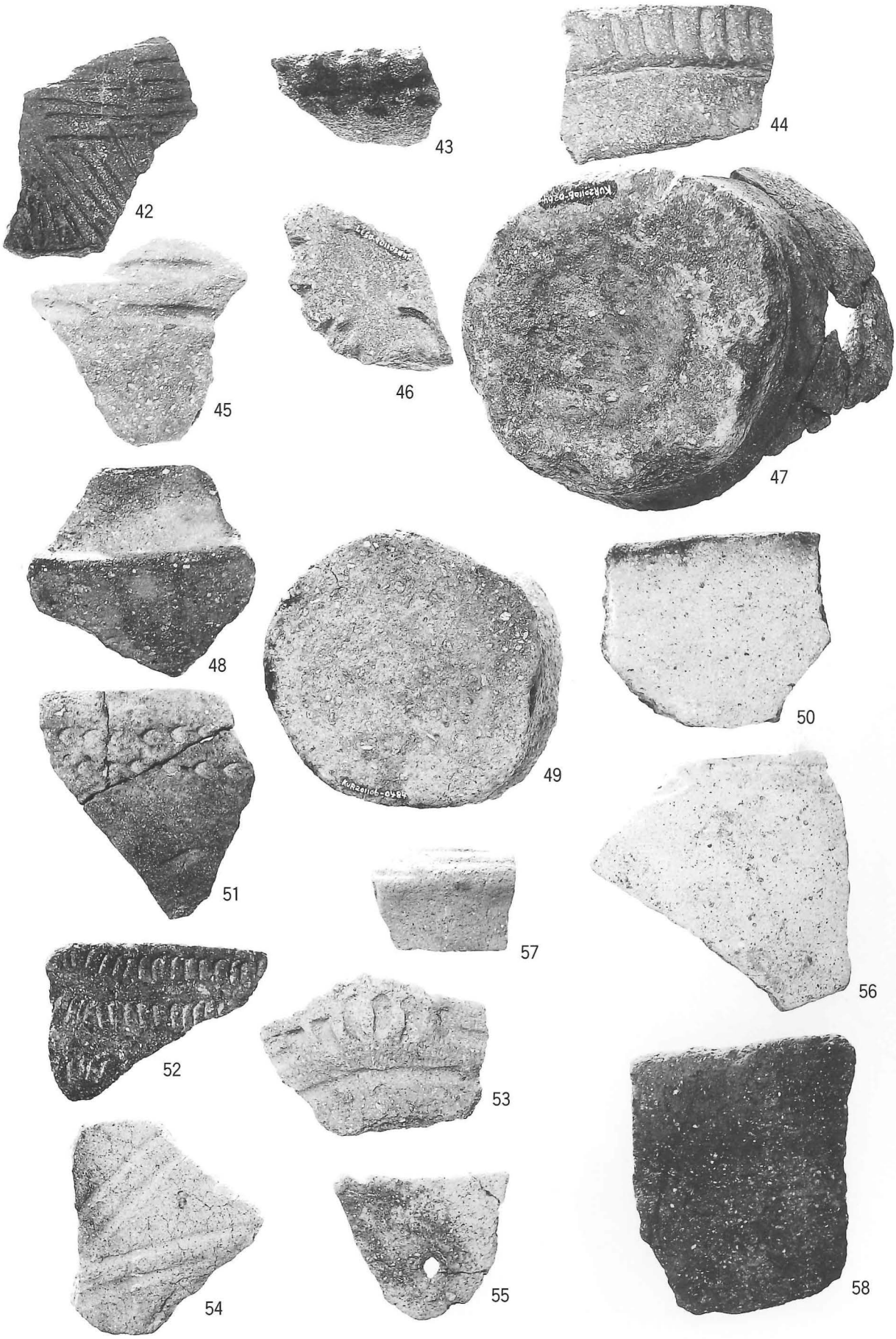
37


39

40

41

3 区出土土器



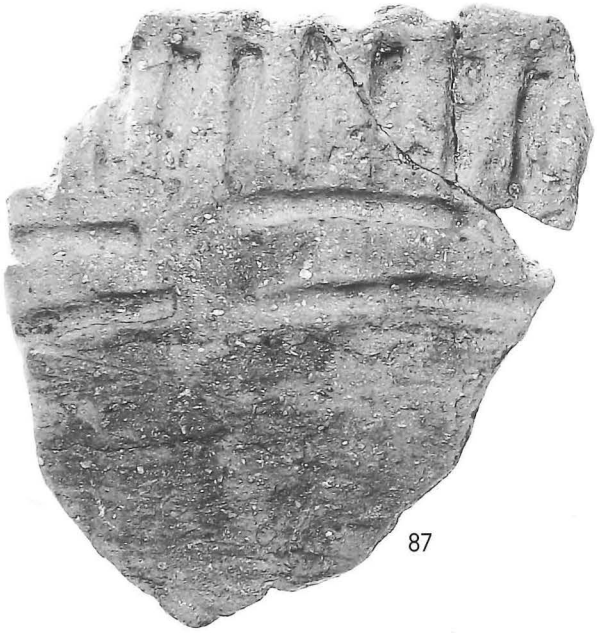
4 区出土土器

図版 8

5 区出土土器

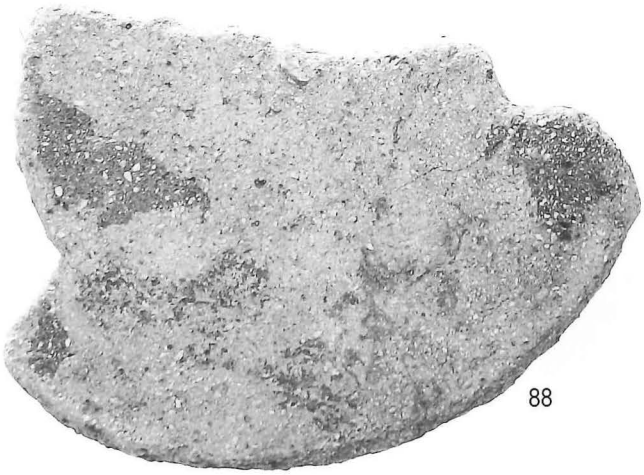
86

90



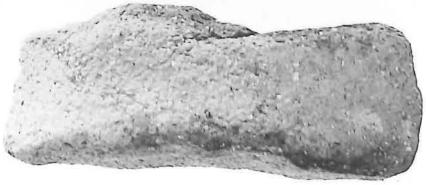
87

89



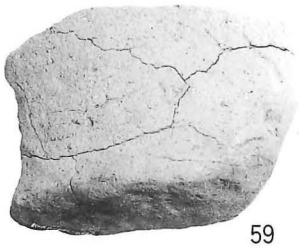
88

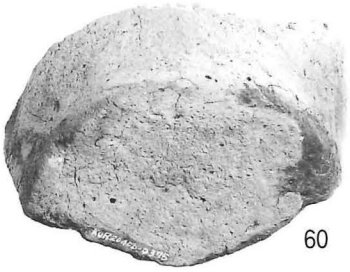
91



92

3区～5区ベルト層出土土器


59


60

61

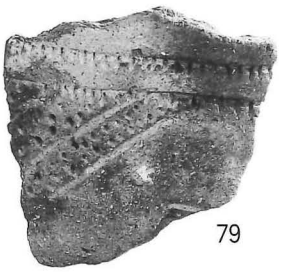
62

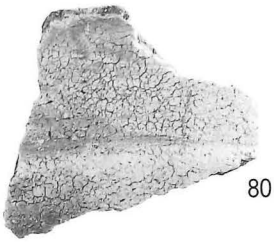
4区出土土器

76

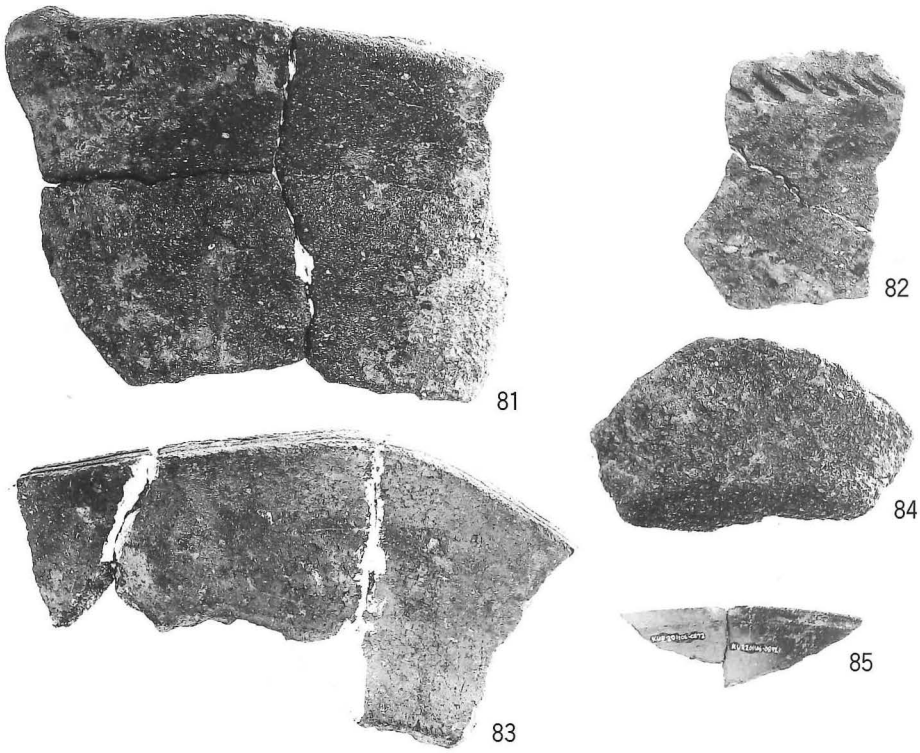
77

78

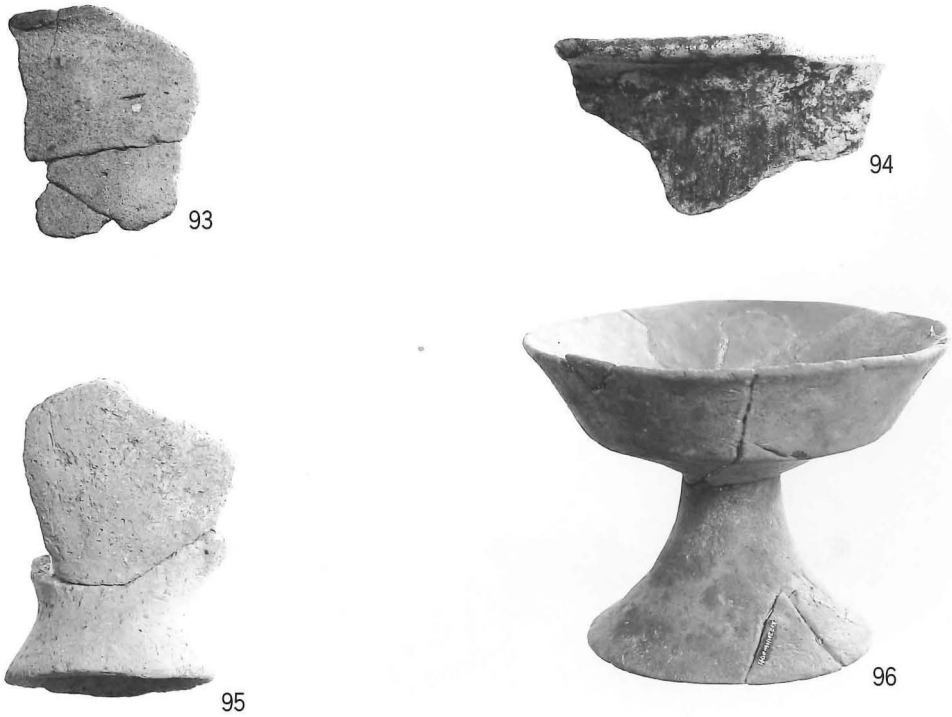

79


80

1区・2区ベルト層出土土器

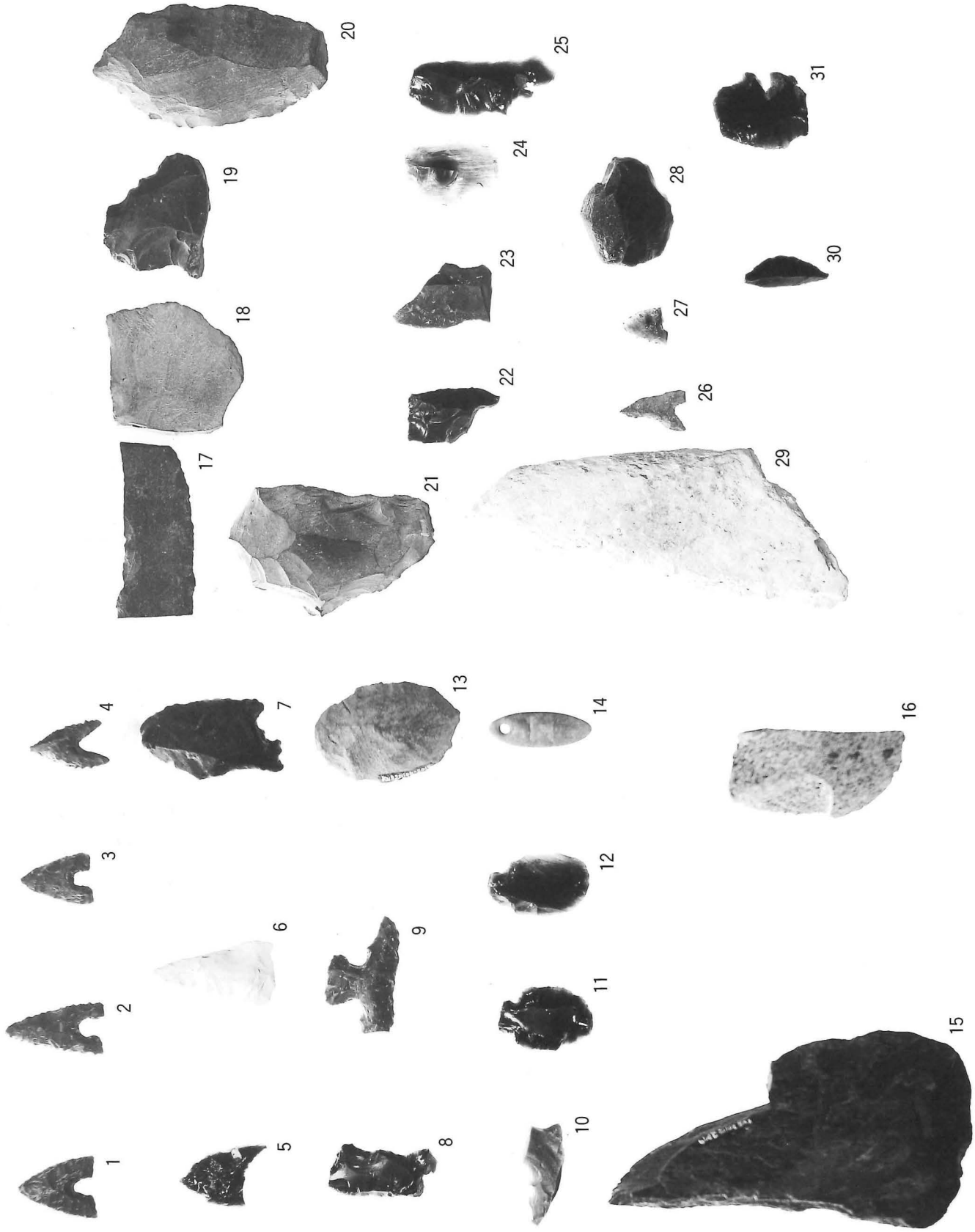


2区・3区ベルト層出土土器



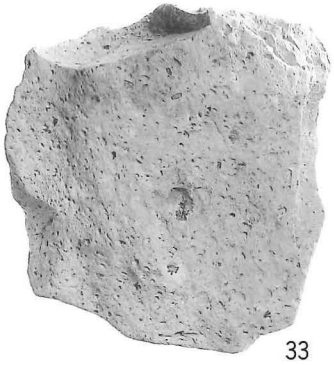
その他の土器

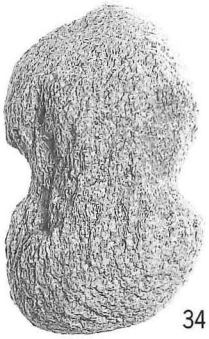
図版12

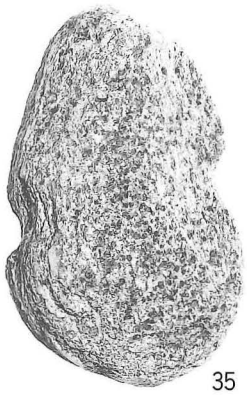


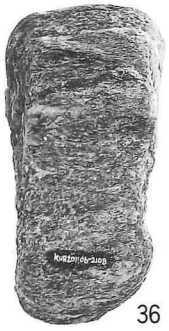
1区～4区出土石器

32


33

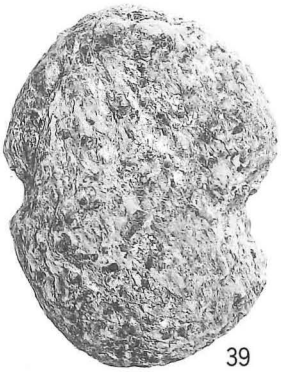

34

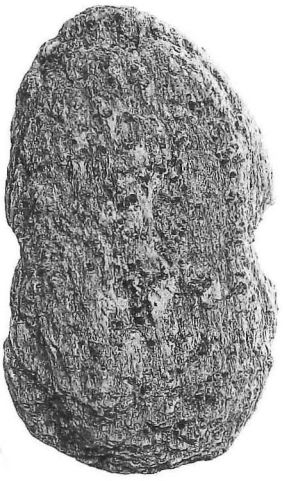

35

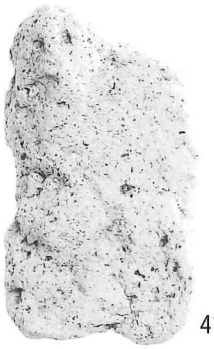

36

37

38


39


40


41

42

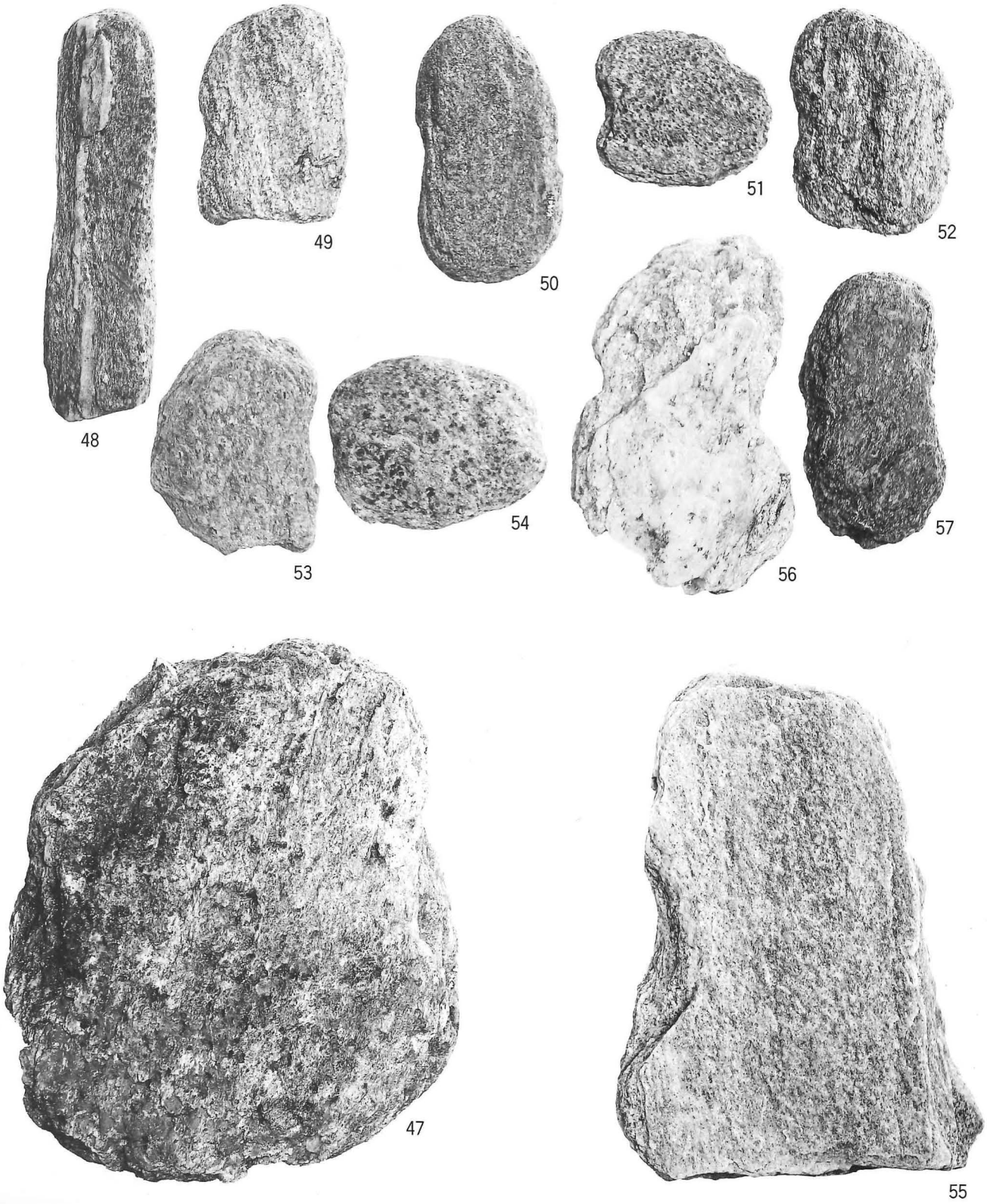
43

44

45

46

1区～5区層出土石器①



1区～5区層出土石器②

報告書抄録

ふりがな	くるりいせき
書名	久留里遺跡
副書名	宅地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	時津町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第3集
編著者名	町田利幸、中村雄一郎、宮武直人
編集機関	時津町教育委員会・長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒851－2198　長崎県西彼杵郡時津町浦郷274番地1
発行年月日	西暦2012年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
久留里(くるり)遺跡	時津町(とぎつちょう) 久留里郷字(くるりごうあざ) 岩本(いわもと)	42308	~~82-23~~ ~~708-005~~ 005	32度 50分 15秒	129度 50分 29秒	2011.5.16 ～ 2011.6.3	60㎡	宅地開発
						2011.10.3 ～ 2011.11.30	310㎡	道路建設

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久留里遺跡	遺物 包含地	縄文時代 弥生時代	集石（貯蔵穴）	曽畑式土器 阿高式土器 北久根山式土器 石錘・大殊	縄文時代時代の遺物が層ごとに出土している。

時津町埋蔵文化財調査報告書第３集

久留里遺跡

平成24年（2012）３月31日発行

発行者　時津町教育委員会
長崎県西彼杵郡時津町浦郷274番地１
〒851-2198　☎（095）882-2211

印刷所　株式会社　昭和堂
長崎県諫早市長野町1007－２
〒854-0036　☎0957-22-6000㈹